泉南市
SENNAN CITY

令和７年度 泉南市教育委員会
点検・評価報告書
（令和６年度対象）

令和７年 11 月

泉南市教育委員会

― 目　次 ―

Ⅰ　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　1　趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　2　実施方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
Ⅱ　令和７年度泉南市教育委員会評価委員会の点検・評価・・・・・・・・・・・2
　1　点検・評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　2　泉南市教育委員会評価委員会開催日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　3　泉南市教育委員会評価委員会委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
Ⅲ　令和６年度泉南市教育委員会について・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　1　教育委員会の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　2　教育委員会会議の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　3　教育委員会会議以外の活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
Ⅳ　令和７年度評価調書(令和６年度対象)・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　1　泉南市教育振興基本計画（第３次）で目指すもの・・・・・・・・・・・・5
　2　泉南っ子日本一宣言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　3　泉南市教育振興基本計画（第３次）の基本方針及び施策項目・・・・・・6
　4　評価調書の見方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　5　点検・評価の重点項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
Ⅴ　泉南市教育委員会評価委員会による意見・・・・・・・・・・・・・・・・・45
　1　基本方針１～５に対する意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
　2　総評・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
Ⅵ　泉南市教育委員会による令和６年度事業等の点検及び評価(総括)・・・・・46
Ⅶ　泉南市教育委員会評価委員会規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

―別添関連資料―

・泉南市教育委員会評価委員会評価調書参考資料（令和６年度対象）

・泉南市教育振興基本計画（第３次）

Ⅰ　はじめに

1　趣旨

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条の規定により、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないとされています。

効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進するため、泉南市教育委員会の点検・評価を実施します。

2　実施方針

（１）点検及び評価は、前年度の事務事業を対象とし、その進捗状況の総括、取組効果や今後の課題について考察するものとし、毎年１回実施します。

（２）点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図る必要があるため、泉南市教育委員会評価委員会を設置します。

（３）評価委員会委員は、学識経験を有する者のうちから、教育委員会が委嘱し、その職務が終了したときは、解任されるものとします。

（４）教育委員会において、点検及び評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を泉南市議会へ提出し、報告書を公表するものとします。

（５）施策項目ごとに設定した成果指標に基づいて総括を行い、次年度以降の方向性を示します。また、次期泉南市教育振興基本計画へ反映し、施策を継承、発展させていきます。

Ⅱ　令和７年度泉南市教育委員会評価委員会の点検・評価

1　点検・評価

泉南市教育振興基本計画（第３次）（計画期間：令和５年度から令和９年度まで）に掲げた施策項目の中から、令和６年度の重点項目として抽出した 17 施策項目を対象として、泉南市教育委員会評価委員会の意見を付記し、点検と評価を行いました。

年度	令和５	**令和６**	令和７	令和８	令和９
	2023	**2024**	2025	2026	2027
泉南市教育振興基本計画（第３次）	計画期間				

2　泉南市教育委員会評価委員会開催日程

実施回・開催日程	案件
第１回 令和７年７月７日（月）	・点検・評価報告書（素案）の内容説明、質疑
第２回予定 令和７年８月25日（月）	・点検・評価報告書（素案）の意見聴取 ・追加質問・質問説明 ・評価（評価委員会の評価・意見欄）
第３回予定 令和７年 10 月６日（月）	・点検・評価報告書（素案）の意見・総括確認

3　泉南市教育委員会評価委員会委員名簿

（五十音順）

委員氏名	所属等
柿本　繁雄	泉南市青少年指導員協議会副会長
佐野　耕治	元小学校校長
田中　暢子	泉南市ＰＴＡ協議会会長
宮崎　勝男	元小学校校長

Ⅲ　令和６年度泉南市教育委員会について

１　教育委員会の構成

職　　名	氏　　名	任　　期
教育長	冨森　ゆみ子	令和４年４月１日から令和７年３月31日まで
委員（教育長職務代理者）	太田　淳子	令和３年４月１日から令和７年３月31日まで
委員	湊　久晶	令和４年７月12日から令和８年７月11日まで
委員	飯沼　治美	令和５年３月14日から令和９年３月13日まで
委員	辻野　治重	令和５年12月25日から令和９年12月24日まで

２　教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月１回、定例会を開催し、議案・報告案件の審議を行っています。また、必要があるときに臨時会を開催しています。

（１）教育委員会会議開催状況

定例会	臨時会	議案数	報告案件数
12 回	１回	40件	30件

３　教育委員会会議以外の活動状況

教育委員会会議や各種協議会等の出席のほか、学校行事や式典、研修・視察等へ出席するなど、泉南市の行事や教育活動に触れる機会を設け、教育現場の実情等について知見を広めてきました。

（１）各種協議会等への出席

・全国都市教育長協議会定期総会・研究大会
・近畿市町村教育委員会研修大会
・市町村教育委員会教育長会議
・大阪府都市教育長協議会
・近畿都市教育長協議会
・泉南地区教育長連絡協議会
・泉南地区教育委員会連絡協議会
・泉南地区都市教育長協議会
・大阪府都市教育委員会連絡協議会
・大阪府都市教育長協議会研修会

Ⅳ　令和７年度評価調書（令和６年度対象）

１　泉南市教育振興基本計画（第３次）で目指すもの

（１）目指す子ども像

子どもたちが課題を克服するとともに、グローバル化や少子化などの社会の急速な変化の中で、たくましく生き抜き、支える人になってほしいと願っています。そのために次のような子ども（人間）を育成することを目指します。

希望と力を持ち、たくましく生き抜く子ども

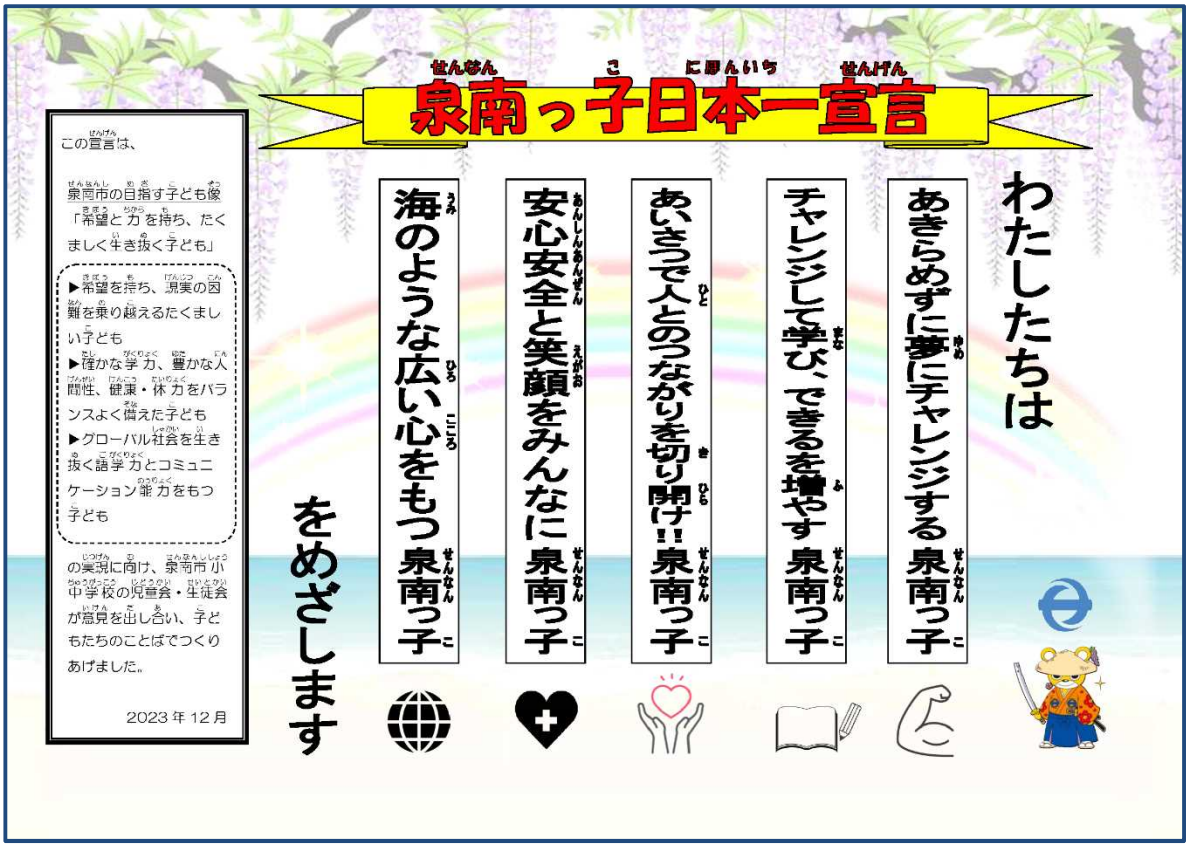
- 希望を持ち、現実の困難を乗り越えるたくましい子ども
- 確かな学力、豊かな人間性、健康・体力をバランスよく備えた子ども
- グローバル社会を生き抜く語学力とコミュニケーション能力を持つ子ども

（２）「目指す子ども像」を実現するための基本理念

皆で育む「大いなる希望」－つながりを力にして－

２　泉南っ子日本一宣言

この宣言は、泉南市教育振興基本計画に示されている、めざす子ども像の実現に向け、「もっとみんながわかる言葉にしよう！」と、泉南市小中学校の児童会・生徒会が意見を出し合い、子どもたちのことばで考えたものです。



３　泉南市教育振興基本計画（第３次）の基本方針及び施策項目

		（施策項目）
基本方針1	確かな学力の定着と豊かな心を育成する	(1) 人権教育の推進と豊かな人間性・社会性の育成
		(2) 学力の向上
		(3) 全ての子どもの学びと育ちの支援
		(4) 国際交流と外国語教育の推進
		(5) 子育て・子育ち支援の充実、強化
		(6) 小中一貫教育の推進
		(7) 健やかな心身の育成
基本方針2	学びを支える教育基盤を整える	(1) 学校組織力の向上
		(2) 教職員の資質・能力の向上
		(3) 家庭学習の充実と支援
		(4) 調整区解消
基本方針3	安全・安心な教育環境を整備する	(1) 子どもが抱える課題に対応できる相談体制の充実
		(2) 泉南市立小中学校再編計画の推進と開かれた学校づくり
		(3) 多様な主体と連携した安全対策の推進
		(4) 安全で快適な教育環境の整備
		(5) 安全・安心な学校給食と食育の推進
基本方針4	生涯学習を推進する	(1) 人権尊重のまちづくり
		(2) 社会教育の充実
		(3) スポーツ活動の推進
		(4) 青少年の健全育成
		(5) 子どもの居場所づくりの推進
		(6) 歴史的資産の活用と市民文化活動の充実
基本方針5	市を挙げて教育施策の推進体制を確立する	(1) 子どもの権利に関する条例の推進
		(2) 市の一般施策との連携強化
		(3) 保護者の負担軽減
		(4) 国等の補助制度の積極的な活用
		(5) 総合教育会議における積極的な協議・調整

4　評価調書の見方

点検・評価の重点項目評価調書

1. 基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課

基本方針	第３次泉南市教育振興基本計画の基本方針、施策項目を記載しています	
施策項目		
泉南っ子日本一宣言		あきらめずに夢にチャレンジする 泉南っ子
		チャレンジして学び、できるを増やす 泉南っ子
		あいさつで人とのつながりを切り開け!!泉南っ子
		安心安全と笑顔をみんなに 泉南っ子
		海のような広い心をもつ 泉南っ子

「泉南っ子日本一宣言」（泉南市の小中学生が意見を出し合い、子どもたちのことばで考えたものです
該当するものに「〇」を記載しています

（１）施策の概要

施策項目の具体的な内容、施策の概要を記載しています

（２）前年度までの主な課題

昨年度までの主な課題や前年度までに評価委員会から受けた意見などを記載しています

2. 施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）主な事業実績

評価年度に実施した主な事業実績を記載しています

（２）指標

	指標名	単位	令和５年度 実績	令和６年度 実績	令和９年度 目標	達成度
指標①						
指標②						
指標③						

教育振興基本計画で設定した成果指標、取組状況、達成度を記載しています

	事務事業名	単位	決算額			予算額
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事務事業費①						
事務事業費②						
事務事業費③						

施策項目に関連する事務事業名、過去３か年の決算額、評価時点の翌年度の予算額を記載しています

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価

自己評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ａ・Ｂ・Ｃ　の３段階評価とし、自己評価を記載しています。	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（２）取組の主な成果と課題

「２．施策の現状把握【DO】　（１）主な事業実績」に記載した内容を踏まえ、取組の主な成果と課題を記載しています
また、自己評価がＡ評価やＣ評価の場合は、評価の要因を分析した内容とそれに対する課題を記載しています

（３）泉南市教育委員会評価委員会の評価

評価委員会評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ａ・Ｂ・Ｃ　の３段階評価とし、教育委員会評価委員会からの評価を記載しています。	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（４）泉南市教育委員会評価委員会の主な意見

教育委員会評価委員会から出された意見を記載しています

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

３．評価【CHECK】」の内容を踏まえ、具体的な今後の主な取組や改善策を記載しています

５　点検・評価の重点項目

（１）確かな学力の定着と豊かな心を育成する
人権教育の推進と豊かな人間性・社会性の育成（１－①）【人権国際教育課】P11

（２）確かな学力の定着と豊かな心を育成する
学力の向上（１－②）【学力向上対策室】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P13

（３）確かな学力の定着と豊かな心を育成する
全ての子どもの学びと育ちの支援（１－③）【学力向上対策室】・・・・・・・P15

（４）確かな学力の定着と豊かな心を育成する
国際交流と外国語教育の推進（１－④）【人権国際教育課】・・・・・・・・・P17

（５）確かな学力の定着と豊かな心を育成する
子育て・子育ち支援の充実、強化（１－⑤）【指導課】・・・・・・・・・・・P19

（６）学びを支える教育基盤を整える
教職員の資質・能力の向上（２－②）【指導課】・・・・・・・・・・・・・・・P21

（７）安全・安心な教育環境を整備する
子どもが抱える課題に対応できる相談体制の充実（３－①）【指導課】・・・P23

（８）安全・安心な教育環境を整備する
泉南市立小中学校再編計画の推進と開かれた学校づくり（３－②）【教育総務課】
・・・・・P25

（９）安全・安心な教育環境を整備する
安全で快適な教育環境の整備（３－④）【教育総務課】・・・・・・・・・・・P27

（10）生涯学習を推進する
社会教育の充実（４－②）【文化振興課（図書館）】・・・・・・・・・・・・P29

（11）生涯学習を推進する
社会教育の充実（４－②）【文化振興課（文化ホール）】・・・・・・・・・・・・P31

（12）生涯学習を推進する
スポーツ活動の推進（４－③）【生涯学習課】・・・・・・・・・・・・・・・・P33

（13）生涯学習を推進する
青少年の健全育成（４－④）【生涯学習課（青少年センター）】・・・・・・・P35

（14）生涯学習を推進する
子どもの居場所づくりの推進（４－⑤）【生涯学習課】・・・・・・・・・・・・P37

（15）生涯学習を推進する
子どもの居場所づくりの推進（４－⑤）【生涯学習課（青少年センター）】・P39

（16）市を挙げて教育施策の推進体制を確立する
子どもの権利に関する条例の推進（５－①）【人権国際教育課】・・・・・・・P41

（17）市を挙げて教育施策の推進体制を確立する
保護者の負担軽減（５－③）【教育サービス課】・・・・・・・・・・・・・・・P43

点検・評価の重点項目評価調書　1

担当課（人権国際教育課）

1.基本的事項　【PLAN】

基本方針	1	確かな学力の定着と豊かな心を育成する
施策項目	1	人権教育の推進と豊かな人間性・社会性の育成
泉南っ子 日本一宣言	○	あきらめずに夢にチャレンジする 泉南っ子
	○	チャレンジして学び、できるを増やす 泉南っ子
	○	あいさつで人とのつながりを切り開け!!泉南っ子
	○	安心安全と笑顔をみんなに 泉南っ子
	○	海のような広い心をもつ 泉南っ子

（1）施策の概要

・性別、国籍、障害の有無、生まれた環境等に関わらず、自己に誇りを持ち、互いの人格を尊重し合える豊かな関係を育めるよう人権保育教育を推進する。
・幼稚園、小・中学校では、社会の仕組みを知り、社会の一員として未来を拓くキャリア教育を推進するとともに、自他の人権を守る実践行動につながるような人権に関する知的理解、人権感覚、意識・意欲・態度を育む人権教育や、規範意識や自他を尊重できる心を育む道徳教育を推進する。
・子どもが人権の意義や内容、重要性を理解できるよう教職員への研修等を通じて人権保育、人権教育の向上を図る。

（2）前年度までの主な課題

・経験の浅い教職員の人権課題への知識を高めるため、段階的な研修が必要であり、また保護者や地域への啓発も進め、学校・家庭・地域で人権感覚を育む体制を整えることが課題である。
・国や府の方針に加えて市独自の重点課題を設定し、具体的な施策を進めることが課題であり、特に部落問題学習は中学校区単位で計画・検証を重ね、取組の改善を図る必要がある。
・外国にルーツのある子どもが安心できる環境整備や保護者への通訳支援の充実が課題である。
・数値化が難しい人権教育については参加者の満足度を意識し、研修内容の質の向上を図ることが求められる。

2.施策の現状把握　【DO】

（1）主な事業実績

○教職員人権教育研修
・初任者、10年経験者人権教育研修…「子どもたちが安心して過ごせる学級づくり」
・人権教育指導者育成講座…部落問題、子どもの権利に関する研修
・人権保育教育講座…在日外国人教育・日本語指導に関する研修

○校内人権研修・研究授業や園内人権研修・研究保育等での指導助言
・小中学校…14回　　・中学校区、市内教職員対象人権研修…3回　　・就学前…26回

○人権国際教育課ヒアリング…泉南市内の幼小中16校園において５月と２月に実施

○人権教育担当者会（小中14校）、人権保育担当者会（８園）を年間各２回ずつ実施
・各学校園の取組状況の共有、中学校区での人権教育の系統性の整理を行った。令和４年度から継続して系統性の整理を行っており、個別人権課題５領域（部落問題・男女平等・在日外国人教育・障害者の人権・子どもの権利）のうち、３領域について各中学校区で整理を行った。（残りの領域については、令和７年度以降で整理を行う予定）

（2）指標

	指標名	単位	令和５年度実績	令和６年度実績	令和９年度目標	達成度
指標①	人権教育に関する研修・講座参加者満足度評価	５段階	4.53	4.33	4	108.3%
指標②	人権に関する研修、研究保育・研究授業の実施校園数	校	16	16	16	100.0%
指標③						

	事務事業名	単位	決算額			予算額
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事務事業費①	人権教育推進事業	千円	853	837	1,163	2,498
事務事業費②	教職員人権教育推進事業	千円	1,204	1,224	1,331	1,361
事務事業費③		千円				

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価

自己評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（２）取組の主な成果と課題

【成果】
・本年度は、個別人権課題に関する研修を実施し、教職員が基礎的な知識や具体的な実践例や実践上大切にする視点を学ぶ機会を提供できた。研修では部落問題や子どもの権利、在日外国人教育などをバランスよく取り上げたことにより、参加者の満足度は5段階評価で4.33と高く、ニーズに応じた内容が満足度につながった。
・校内・園内での指導助言では、個別課題だけでなくインターネット上の人権侵害など現代的な課題も取り上げ、子どもの言動の背景を理解し、子ども同士の関係性を育む視点の重要性を伝えることができた。
・外国にルーツのある児童生徒の増加を踏まえ、教育委員会として初期指導の手引きを新たに作成し、各学校園において児童生徒一人ひとりの実態を丁寧に把握したうえで、必要に応じた学習支援や加配教員による日本語指導など具体的なサポートを行うことができた点は、今年度の大きな成果の一つである。
・各中学校区では、系統性の整理だけでなく実践後の振り返りを共有し、取組の質を高めることができた。
【課題】
・担当者会の時間内だけでは十分な検証は難しかったため、次年度以降も中学校区単位での振り返りと検証を継続し、より効果的な取組につなげていく必要がある。

（３）泉南市教育委員会評価委員会の評価

評価委員会評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（４）泉南市教育委員会評価委員会の主な意見

・指標①「人権教育に関する研修・講座の参加者満足度評価」の目標設定を今後はもう少しあげておいた方が良い。
・小学校区での人権教育の取組を中学校区単位でも系統立てた人権教育を継続して行っていただきたい。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

〇教職員研修の質の維持・向上
・教職員のニーズに応じた人権教育研修を今後も継続して実施する。特に、参加者の満足度が高かった個別人権課題に関する研修や、研究授業・研究保育での指導助言を継続し、教職員一人ひとりの指導力向上を図る。
〇中学校区での振り返りと検証の継続
・中学校区単位で取り組んできた人権教育の系統性の整理と実践後の振り返りを、次年度以降も継続して実施する。これにより、各中学校区の課題に即した取り組みを一層深化させ、人権教育の質を高めていく。
〇外国人児童生徒への支援体制の充実
・今年作成した「初期指導の手引き」を活用し、外国人児童生徒の初期指導を継続する。また、通訳支援や多言語での情報提供なども引き続き充実させ、子どもたちと保護者が安心して学校生活を送れる環境を維持・発展させていく。

点検・評価の重点項目評価調書　2

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課　（ 学 力 向 上 対 策 室 ）

基本方針	1	確かな学力の定着と豊かな心を育成する
施策項目	2	学力の向上
泉南っ子 日本一宣言	○	あきらめずに夢にチャレンジする 泉南っ子
	○	チャレンジして学び、できるを増やす 泉南っ子
		あいさつで人とのつながりを切り開け!!泉南っ子
		安心安全と笑顔をみんなに 泉南っ子
		海のような広い心をもつ 泉南っ子

（1）施策の概要

○子どもたちの主体的に学ぶ力の育成と抜本的な学力向上施策の展開
・AIドリルの活用
・市独自の学力検査等の実施とその結果の活用
・家庭・地域との連携

（2）前年度までの主な課題

・全国学力・学習状況調査における基礎基本問題でのつまづき・未定着が見られる。
「知識・技能」小学校　国・算ともに大阪府平均以下、中学校　国・数ともに大阪府平均以下
＜対府比＞R5　小学校　国：0.93・算：0.92、中学校　国：0.87・数：0.90
・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査における「(学校の授業時間以外に)平日1日30分以上勉強している」の回答の数値が全国・大阪府の数値よりも下回る。
R5　小学校　全国：84.0%、府：73.6%、市：65.6%、　中学校　全国：83.8%、府：79.5%、市：71.3%
【課題】
・AIドリルの使用実績は、学校ごとや学年ごとなど差があり、市全体として共通した取組を進めるなどの検討が必要である。
・AIドリルの中学校の使用実績が低いため、中学校での活用方法の検討、好事例の発信などを行うことが必要である。
・認知能力検査の実施が11月以降となり、結果が1月以降の返却となったため、結果を活用した授業改善方法の検討や児童生徒理解への活用方法の検討などが十分に行えなかった。

2.施策の現状把握　【ＤＯ】

（1）主な事業実績

・AIドリルの月毎利用状況を各校に情報提供し、活用の推進を図る。
・AIドリル活用の好事例を発信する。
・市内ICT担当者会や学力向上担当者会などで活用の検討を提案する。
・認知能力検査に加え、標準学力検査を実施し、結果の分析、活用を推進することで、一層の児童生徒理解と授業改善を図る。そのために、研修の実施や指導助言を行う。
・引き続き、月1回を目標に家庭・地域に向けた通信を発行する。

(R6費用)
・AIドリル使用料：6,692,400円
・市独自の教育検査(消耗品費)　：4,802,540円

（2）指標

	指標名	単位	令和５年度実績	令和６年度実績	令和９年度目標	達成度
指標①	小学校：全国学力・学習状況調査結果の全国比	%	国語:90.3 算数:90.1	国語:91.6 算数:94.6	100.0	国語:91.6 算数:94.6
指標②	中学校：全国学力・学習状況調査結果の全国比	%	国語:87.0 数学:86.3	国語:91.2 数学:85.7	100.0	国語:91.2 数学:85.7
指標③						

	事務事業名	単位	決算額			予算額
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事務事業費①	学力向上推進事業	千円	-	7,528	14,799	12,614
事務事業費②		千円				
事務事業費③		千円				

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価

自己評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（２）取組の主な成果と課題

【成果】
・AIドリルの活用については、好事例を市内担当者会等において共有した。また、制作会社の教職員向けウェブサイトにおいて、本市の取組が2校取り上げられた。
・利用状況は一定ではないが、学校全体で取組期間を設けたり、児童会が主体となって取組を行ったりする学校もあり、積極的な活用に向けた取組が増えてきた。その中には、1週間で学校全体で17000問の問題に取り組んだ学校があるほどである。
・認知能力検査、標準学力検査の結果から、市の課題をより具体的にとらえることができた。
・認知能力検査、標準学力検査の結果を効果的に活用するための研修を年間36回実施した(14校中13校において実施）。
・認知能力検査、標準学力検査の結果を校内研究などの視点に取り入れる学校が増え、校種や教科、経験年数などに左右されない、授業を見る視点が育まれてきた。
・保護者、地域に向けた通信は、毎月1号以上発行し、年間で11号発行した。また、不定期ではあるが、教職員向けの通信(電子版・非公開）も作成し、年間で13号発行した。
【課題】
・AIドリルの使用実績は、学校ごとや学年ごと、校種や教科などで差があり、学力向上や家庭学習の向上に資するよう、市全体として活用の在り方を検討する必要がある。
・AIドリルの市内活用状況としては、月毎のばらつきが大きい状況だが、平均したところ、R5と比較して、小学校13%、中学校35%の活用率が減少した。
・認知能力検査、標準学力検査の結果から把握した市の課題に正対した授業改善や子ども理解の推進を一層進めていく必要がある。

（３）泉南市教育委員会評価委員会の評価

評価委員会評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（４）泉南市教育委員会評価委員会の主な意見

・タブレットの利用頻度の高い学校が低い学校へ活用方法等を伝え、泉南市全体の活用レベルが同じになるよう努めてもらいたい。
・全国学力・学習状況調査の結果が大阪府平均を下回っているため、学力向上の取組に努めてもらいたい。
・「認知能力検査」の結果は「良い所」、「苦手な所」が書かれており保護者も子どもも分かりやすく、子どもが自己肯定感を上げることできるいいものなので活用を続けていただきたい。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

・AIドリルの月毎利用状況を各校に情報提供し、活用の推進を図る。
・AIドリル活用の好事例を発信する。
・市内ICT担当者会や学力向上担当者会などで活用の検討を提案する。
・認知能力検査と標準学力検査の、結果の分析、活用を推進することで、一層の児童生徒理解と授業改善を図る。
・引き続き、月１回を目標に家庭・地域に向けた通信を発行する。

点検・評価の重点項目評価調書　3

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課　（ 学 力 向 上 対 策 室 ）

基本方針	1	確かな学力の定着と豊かな心を育成する
施策項目	3	全ての子どもの学びと育ちの支援
泉南っ子 日本一宣言	○	あきらめずに夢にチャレンジする 泉南っ子
	○	チャレンジして学び、できるを増やす 泉南っ子
	○	あいさつで人とのつながりを切り開け!!泉南っ子
	○	安心安全と笑顔をみんなに 泉南っ子
	○	海のような広い心をもつ 泉南っ子

（1）施策の概要

〇様々な教育課題に対する支援
・教育振興基本計画に示されためざす子ども像を実現するための「泉南っ子日本一宣言」の策定
・保護者・地域への情報発信として、「学力向上対策室だより」を発行

（2）前年度までの主な課題

・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査における「自分には、良いところがあると思う」の肯定的回答割合が小学校では全国の数値よりも下回り、中学校では全国・大阪府の数値よりも下回る。
・R4とR5を比較すると、小学校は上昇傾向だが、中学校は下降傾向にある。
R4　小学校　全国：79.3%、府：78.3%、市：75.8%、　中学校　全国：78.5%、府：75.2%、市：77.9%
R5　小学校　全国：83.5%、府：82.2%、市：83.0%、　中学校　全国：80.0%、府：77.7%、市：69.8%

2.施策の現状把握　【ＤＯ】

（1）主な事業実績

・全小中学校の児童会・生徒会意見をまとめ、泉南市がめざす子どもの姿を自分たちの言葉で表した「泉南っ子日本一宣言」を実現すべく、学校活性化計画のフォーマットを変更し、具体的な取組を意識できるようにした。
・「泉南っ子日本一宣言」で示された姿に自分たちの姿を重ね、宣言の実現を個人レベルでめざし具現化しやすくするため、自尊感情や他尊感情を高めることを目的とした「KIRAMEKI☆SUTEKI泉南っ子」事業を年3回（学期に1回)実施した。
・「KIRAMEKI☆SUTEKI泉南っ子」事業において、認定を称えるべく、年間で認定されたすべての児童生徒に対し、認定の副賞として「泉南熊寺郎ミニトロフィー」を作成し、配布した。
・毎月1号以上の「学力向上対策室だより」を発行し、教育委員会や学校で取り組んでいること、子どもの活躍、家庭における子どもへのかかわり方など、情報発信による啓発を行った。

(R6費用)
・記念品代：2,178,000円(3年分)
・広報ページ買取：84,832円
・紙代(賞状・シール等）：41,082円

（2）指標

	指標名	単位	令和５年度実績	令和６年度実績	令和９年度目標	達成度
指標①	小学校：「自分には、良いところがあると思う」の肯定的回答割合	%	83	86	85	101.53%
指標②	中学校：「自分には、良いところがあると思う」の肯定的回答割合	%	70	82	85	96.59%
指標③						

	事務事業名	単位	決算額			予算額
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事務事業費①	学力向上推進事業	千円	-	7,528	14,799	12,614
事務事業費②		千円				
事務事業費③		千円				

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価

自己評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（２）取組の主な成果と課題

【成果】
・小中学校ともに、R5に比べR6において自尊感情の向上がみられた。
・「KIRAMEKI☆SUTEKI泉南っ子」事業では、年間延べ約650件の応募があり、自尊感情の育成の一助になったと考えている。
・毎月1号以上、年間11号の「学力向上対策室だより」を発行することで、積極的な情報発信を行うことができた。
・「泉南っ子日本一宣言」の実現に向け、泉南市小中学校生徒指導協議会主催で、市内全小中学校の児童会・生徒会の代表児童生徒が集まり意見交流をする「泉南市児童会生徒会サミット」が、泉南市議会議場において実施された。
【課題】
・「泉南っ子日本一宣言」の実現に向けた各校の具体的な取組を十分に把握することができなかった。
・「学力向上対策室だより」の発行が市ウェブサイトと学校からの保護者配信メールのみであり、保護者や地域の認知状況の把握ができない。

（３）泉南市教育委員会評価委員会の評価

評価委員会評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（４）泉南市教育委員会評価委員会の主な意見

・「泉南っ子日本一宣言」の実現を目指した「KIRAMEKI☆SUTEKI泉南っ子」事業は、子どもたちの自尊感情や他尊感情を高める一助として大変評価できる。
・指標の自己肯定感の数値が上がっていることは、いろいろな課題が多い中でそれらを共有しながら教育委員会と学校が一緒にやっているということの賜物である。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

・子どもたちが日本一宣言を具現化していくことができるよう、学校活性化計画に取組を意識する内容を追加するなど、各校での取組推進を働きかける。
・日本一宣言の取組に関連付けた自尊感情を高める取組みとして、生徒指導担当指導主事や児童生徒支援コーディネーター加配担当指導主事等とも情報を共有し、事業の充実に努める。
・保護者・地域への情報発信の継続と、一層の広報を検討する。

点検・評価の重点項目評価調書　4

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課（人権国際教育課）

基本方針	1	確かな学力の定着と豊かな心を育成する
施策項目	4	国際交流と外国語教育の推進
泉南っ子 日本一宣言	○	あきらめずに夢にチャレンジする 泉南っ子
	○	チャレンジして学び、できるを増やす 泉南っ子
	○	あいさつで人とのつながりを切り開け!!泉南っ子
		安心安全と笑顔をみんなに 泉南っ子
	○	海のような広い心をもつ 泉南っ子

（1）施策の概要

・子どもが今後のグローバル社会に対応し、多様な文化に触れながら豊かな心を育むことができるよう、就学前の段階から積極的に国際交流を推進する。
・小・中学校では、国際交流を継続しつつ、外国語教育の質を高めて語学力やコミュニケーション能力の向上を目指す施策を推進する。
・市民との国際交流活動を実施し、市民が多様な文化に触れる機会をつくる。

（2）前年度までの主な課題

・就学前から国際交流を推進し、多様な文化に触れる機会を設けているものの、授業内での言語活動の割合が低く、特に小・中学校においては、外国語教育を４技能（話す、書く、読む、聞く）を統合的に指導できるよう、更なる指導助言が求められる。
・様々な国から受け入れ、円滑に事業が進められていることは成果であるが、国際交流活動の認知度や満足度を高めるだけでなく、活動内容の充実も今後の重要な課題である。
・市民向けの国際交流活動や多文化理解の推進においては、翻訳・通訳業務のニーズが高まっており、継続的な取組が必要である一方、職員の負担軽減を図るための体制整備を早急に進める必要がある。

2.施策の現状把握　【ＤＯ】

（1）主な事業実績

○ALT（外国語指導助手）
・市内全14小中学校においてJET-ALTが年間を通して外国語・英語の授業、休憩時間等の外国語活動などの取組を進めることができた。（小学校12人・中学校8人を配置）
・小学校ではALTが外国語の授業だけでなく、様々な教科に入り込み日常的に英語を使用する機会を作った。
・市内の他校での外国語・英語の授業をALTが相互に見学する研修を実施。
○CIR（国際交流員）
・外国にルーツがある方が来庁された際の手続の通訳補助や市役所の書類の翻訳（英語・スペイン語・中国語・フィリピノ語）を行った。また、学校での配付物の各種言語への翻訳を実施。（年間178回）
・保護者研修や職員研修、市民向け講座の講師として自国の文化についての紹介を実施。（年間86回）
・学校等での国際交流活動として読み聞かせ・自国の文化紹介やクイズを実施。（年間416回）
○JET全体
・9月7日（土）にJETメンバーが企画運営した第2回JETまつりを実施。JETメンバーが自分が泉南市民に伝えたい自国の文化についての紹介をブース形式で行い、同時に、舞台では子どもたちが楽しめるものを発表した。（市民参加者260名程度）

（2）指標

	指標名	単位	令和５年度実績	令和６年度実績	令和９年度目標	達成度
指標①	英検3級相当以上の英語力がある中学3年生の生徒割合	%	51.6	47.0	30.0	156.7%
指標②	児童生徒の国際交流後の満足度	%	95.2	98.0	90.0	108.9%
指標③	児童生徒のALT配置による外国語授業満足度	%	89.8	89.2	85.0	104.9%

	事務事業名	単位	決算額			予算額
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事務事業費①	JETプログラム事業	千円	18,356	17,977	20,997	26,604
事務事業費②		千円				
事務事業費③		千円				

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価

自己評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（２）取組の主な成果と課題

・中学校区では、外国語教育において「児童生徒にどのような力をつけるか」という観点から整理した校区共通の目標を、授業づくりや実践に活用することができた。あわせて、担当者会を通じて市教育委員会から学校現場への情報提供や助言を行い、各校の取組を後押しした。今後は、この共通目標の達成に向けて、ALTをより積極的に授業づくりに生かし、指導体制を更に充実させていく必要がある。
・ALT同士が互いの授業を見学する機会を設けることは、ALT自身の専門性向上だけでなく、学校全体の外国語・英語授業の質向上にも寄与するため、次年度以降も継続して実施していきたい。
・CIRによる国際交流活動は、幼児教育から中学校段階まで年間を通じて多様な学校園で展開された。児童生徒のアンケートでは満足度が95%を超える結果が得られた。
・9月に開催された「JETまつり」では、日頃学校園で交流している子どもたちだけでなく、幅広い年代の市民が参加し、泉南市民の中でCIRやALTの存在が確実に浸透しつつあることを実感できる取組となった。当日は来場者アンケートも実施し、回答者すべてが満足度に肯定的な回答を寄せており、次回以降はこうした参加者の声を企画運営に生かしていきたい。

（３）泉南市教育委員会評価委員会の評価

評価委員会評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（４）泉南市教育委員会評価委員会の主な意見

・「英検３級相当以上の英語力がある中学３年生の生徒割合」やJETプログラムについても泉南市はとても進んでいる。もっとアピールをするべきである。
・外国人の人口が増えているので通訳（語学補助）業務の人員が不足している。これからのことを考え、今居る外国にルーツのある子どもが大人になった時に通訳等をしてもらえるよう働きかけるのも一つの方法と考える。
・いつまでもJETプログラムの制度があるとは限らないので、もっとアピールをして、より一層の活用していただきたい。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

〇外国語教育の更なる充実
・今後もALTを積極的に活用し、小・中学校における４技能を統合的に育む指導体制を充実させる。ALT相互の授業見学も継続し、指導の専門性向上を図る。
〇国際交流活動の質的向上と認知度拡大
・CIRの学校園での活動を継続し、内容の充実に努める。また、「JETまつり」は、JETプログラムの広報啓発と市民への浸透を図る重要な機会として、アンケート結果を活かしながら効果的に展開していく。また、市の広報・ホームページ等を一層活用し、知名度をあげていきたい。
〇支援体制の強化
・翻訳・通訳業務の需要が高まる中、円滑な対応が可能となるよう体制の整備を進めていく。これにより、外部機関との連携強化や業務の改善を図り、多文化共生社会に対応した持続可能な支援体制を確立する。

点検・評価の重点項目評価調書　5

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課（　指　導　課　）

基本方針	1	豊かな学力の定着と豊かな心を育成する
施策項目	5	子育て・子育ち支援の充実、強化
泉南っ子 日本一宣言	○	あきらめずに夢にチャレンジする 泉南っ子
	○	チャレンジして学び、できるを増やす 泉南っ子
	○	あいさつで人とのつながりを切り開け!!泉南っ子
	○	安心安全と笑顔をみんなに 泉南っ子
	○	海のような広い心をもつ 泉南っ子

（1）施策の概要

○子どもの実態に応じた教職員配置と保育体制の確立
・支援が必要な子どものへの人的配置及び育ちの保障
○一人ひとりが尊重し合うクラス集団づくり
・互いのよさや違いを認め合い、仲間を大切にする気持ちや相手のことを思い行動できる力を育てる
・障害の特性を理解し、きめ細やかな支援を行う

（2）前年度までの主な課題

・支援教育へのニーズが高くなっており、子どもが安心、安全に園生活を送るために適切な支援加配教員数を引き続き配置する
・支援対象児が増加傾向にあるため、支援教育コーディネーター（副園長）が中心となり、具体的な支援方法や子どもにとってよりよい支援のあり方を学ぶ機会を継続して保障する

2.施策の現状把握　【ＤＯ】

（1）主な事業実績

支援加配教員(幼稚園2園)の配置
R3 支援対象児74名(全園児数304名) 24.3% 支援加配教員数 20.8人
R4 支援対象児71名(全園児数285名) 24.9% 支援加配教員数 20.8人
R5 支援対象児69名(全園児数274名) 25.2% 支援加配教員数 17.9人
R6 支援対象児67名(全園児数268名) 25.0% 支援加配教員数 19.5人

・専門機関の職員及び指導主事（指導課）が各園を訪問し、学期に1回程度、支援が必要な子へのかかわりについて、指導助言を行う（訪問指導）
・支援コーディネーター（副園長）を中心とした定期的な支援会議の開催
・子ども総合支援センター主催の研修や大阪府教育センター等の研修に参加し、支援加配教員のスキルアップを図る

（2）指標

	指標名	単位	令和５年度実績	令和６年度実績	令和９年度目標	達成度
指標①	(第3次泉南市教育振興基本計画で指標の記載なし)					
指標②						
指標③						

	事務事業名	単位	決算額			予算額
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事務事業費①	学校園管理運営事業	千円	17,707	22,743	21,550	22,085
事務事業費②		千円				
事務事業費③		千円				

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価

自己評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（２）取組の主な成果と課題

【成果】
・保護者の希望と子どもの実態及び専門家による判定に基づき、集団生活を送る上で個別の支援や配慮が必要な子どもに対する支援加配教員を配置した。
・支援教育にスポットをあてた研究保育を実施し、支援方法の振り返りや今後の方向性を検討し、職員間で共通理解している。
・経験年数の浅い職員を含む支援担当職員について、子どもの特性にあったかかわり等、具体的に学ぶ機会をもつことができた。

【課題】
・専門機関との連携をはかり、子どもや保護者が安心して園生活を送れるようこれからも努めていく。
・子どもを多面的にとらえ、発達段階を把握し、その子に合った支援方法を探り、園内で検証する場をもつ。
・子ども一人ひとりのよさや違いを認め合う保育を通して、自己肯定感や自尊感情を育てる。
・引き続き、支援方法の振り返りや職員間で共通理解する場を継続していく。

（３）泉南市教育委員会評価委員会の評価

評価委員会評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（４）泉南市教育委員会評価委員会の主な意見

・支援の必要な子どもが増加傾向にあるため、支援加配教員の確保や支援方法の研鑽に努めていただきたい。
・園児たちの安全な保育教育のための取組を継続していただきたい。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

・子どもが安心、安全に園生活を送る為の適切な支援加配教員の配置を行う。
・個別の支援計画や指導計画に基づき、一人ひとりの発達に応じた目標、課題を明確にし、目標達成に向け、具体的なかかわりや支援方法を考える。
・支援教育コーディネーターを中心とした支援加配教員対象の研修を計画的に実施する。

点検・評価の重点項目評価調書　6

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課（　指　導　課　）

基本方針	2	学びを支える教育基盤を整える
施策項目	2	教職員の資質・能力の向上
泉南っ子 日本一宣言	○	あきらめずに夢にチャレンジする 泉南っ子
	○	チャレンジして学び、できるを増やす 泉南っ子
	○	あいさつで人とのつながりを切り開け!!泉南っ子
	○	安心安全と笑顔をみんなに 泉南っ子
	○	海のような広い心をもつ 泉南っ子

（1）施策の概要

・教育の質を高める研究と修養が可能な職場環境づくりの支援
・働き方改革を考慮してICTを活用した研修の充実
・外部人材を活用した教職員研修の充実

（2）前年度までの主な課題

・学力向上、教科指導力の向上だけではなく、社会や教育現場の変革に向き合うことができる資質・能力を備えた教職員の育成が求められる。
・子どもの教育にかかわる教職員として、一般的・総合的な資質能力の向上のみならず、泉南市の特徴や独自の課題に対応し、「泉南っ子日本一宣言」でのめざす子ども像を育てる教職員としての資質能力の向上も求められている。
・計画的な教職員研修の実施に加え、各校の実態に応じた日常的なOJTを推進するとともに、教職員研修を通じた教職員一人ひとりの資質能力の向上やその効果について検証することも求められる。

2.施策の現状把握　【ＤＯ】

（1）主な事業実績

○学校教育アドバイザーによる学校訪問型研修
・教育アドバイザーが学校を定期的に訪問し、教員経験年数の浅い講師や教諭に対して指導助言を行った。指導内容は生徒指導・学級経営・学習指導等である。年間でのべ439学校園を訪問し、のべ376人の教職員へ指導助言を実施した。併せて、学校園長に対してもマネジメント相談を実施した。

○教職員研修の実施
・「令和の日本型学校教育」を担う教師として、「学び続ける」教職員を組織的・継続的に育成するため、各学校園の実態に応じて、外部人材を活用した研修を実施。
（各学校平均３回/年間、各園平均５回/年間）

○市内教職員研修の実施
・泉南市の特徴や独自の課題に対応できる資質能力の向上に向け、教職員に義務教育９年間を見据えた小中一貫教育を効果的、効率的に進めることができるよう研修を実施。
講演「泉南市の教育と小中一貫教育」講師：初田幸隆氏（京都市教育委員会事務局 参与）

○指導教諭による研修会の実施
・本市の指導教諭による研修会を年間４回実施した。内容は【人権教育】【支援教育】【服務】【学習指導】である。また、初任者教員への研修会にも指導教諭を活用した。

（2）指標

	指標名	単位	令和５年度実績	令和６年度実績	令和９年度目標	達成度
指標①	外部人材による研修の実施回数	(回/年)	3	4	8	50.0%
指標②	全国学力学習状況調査児童生徒質問紙「授業の内容がわかる」と回答する児童生徒の割合	%	小：83.5 中：75.4	小：91.1 中：83.1	小：90.0 中：85.5	小：101.2% 中： 97.2%
指標③						

	事務事業名	単位	決算額			予算額
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事務事業費①	教育推進事業	千円	102,101	100,611	146,681	574,020
事務事業費②		千円				
事務事業費③		千円				

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価

自己評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（２）取組の主な成果と課題

【成果】
・学校教育アドバイザーによる学校訪問型研修
各校を定期的に訪問し、生徒指導の観点や学習指導の観点で若手教員を中心に指導助言を行った。また、講師や経験年数の浅い教員の授業観察を行い、直接的・個別的に指導助言を行った。本市の指導教諭とともに各学校園の経験の浅い教員を対象に年間４回の研修（集合型）を実施した。
・教職員研修の実施
「令和の日本型学校教育」を担う教師として、「学び続ける」教職員を組織的・継続的に育成するため、各学校園の実態に応じて、外部人材を活用した研修を実施した。
【各小中学校約３回/年・各幼稚園約５回/年】
（小中内訳）教科指導：23回・ICT：５回・児童支援:５回・その他:10回
（幼稚園内訳）保育授業づくり:12回・子育て支援:１回
・約265名の市内学校園の教職員集合。「泉南市の教育と小中一貫教育」という演題で昨年度に引き続き、京都市教育委員会初田幸隆さんに講演いただいた。振り返りでは参加者の約90%から肯定的回答を得られた。
【課題】
・令和６年度全国学力学習状況調査（児童質問紙より）「国語（算数）の勉強は好きですか」に対して「当てはまる」と答えた割合は大阪府平均を上回っているが,「国語（算数）の授業の内容はよく分かりますか」に対して「当てはまる」と答えた児童の割合は大阪府平均を下回っている。
・令和６年度全国学力学習状況調査（生徒質問紙より）
「国語の勉強は好きですか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」に対して、「当てはまる」と答えた割合は全国平均を上回っているが、数学での同内容の質問に「当てはまる」と答えた生徒の割合は全国・大阪府を下回っている。
今後も「分かる授業」の実現に向けて指導者が主体的に研修を積み重ねていく必要がある。

（３）泉南市教育委員会評価委員会の評価

評価委員会評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（４）泉南市教育委員会評価委員会の主な意見

・「小中一貫教育」についての研修を行っているが、（仮称）西信達義務教育学校の開校もあるため、これからもこのような研修を教職員だけでなく、保護者や市民にも研修を行っていただきたい。
・学校教育アドバイザーによる訪問型の研修はすばらしい取組である。学校にもメリットがあるためこれからも継続して行っていただきたい。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

・引き続き、指導教諭による研修会を実施し、教職員としての資質能力の向上を図る。また、座学を中心とした研修だけでなく指導教諭による公開授業など実習的な研修会も実施していく。
・学校教育アドバイザーによる若手教員への支援を引き続き実施し、子どもたちに「分かる授業」を展開できるよう指導力の向上を図る。
・小中連携を進めていくためにも、学校単位で行っている校内研修に中学校区全教員が参加できるような仕組みを推進する。

点検・評価の重点項目評価調書　7

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課（　指　導　課　）

基本方針	3	安全・安心な教育環境を整備する
施策項目	1	子どもが抱える課題に対応できる相談体制の充実
泉南っ子 日本一宣言	○	あきらめずに夢にチャレンジする 泉南っ子
	○	チャレンジして学び、できるを増やす 泉南っ子
	○	あいさつで人とのつながりを切り開け!!泉南っ子
	○	安心安全と笑顔をみんなに 泉南っ子
	○	海のような広い心をもつ 泉南っ子

（1）施策の概要

子どもが抱える不安や悩みから生じるいじめ問題、不登校、問題行動等に対し、子どもに寄り添い、丁寧に対処するため、学校園における相談体制を強化するなど心のケアの仕組みの再構築に取り組む。また、学校園だけではなく、家庭や地域、あらゆる関係機関と連携し、子どもの命を最優先にして、市民とともに子どもが抱える課題の未然防止、早期発見・早期対応・解決に向けた取組を推進する。

- 様々な教育課題に対応する支援
- 不登校児のさらなるサポート体制の構築
- 支援を要する児童生徒の学校生活の支援

（2）前年度までの主な課題

・長期間にわたり不登校状態が継続している家庭に対して、学校と専門家や関係機関と連携し、適切なアセスメントとプランニングを行うことなど、登校支援以外の支援が必要。
・体調不良が要因での欠席の児童生徒の中には、不登校傾向の児童生徒もおり、その児童生徒への支援については、情報を集約し、アセスメントする必要がある。
・長期間にわたる不登校児童生徒への支援を学校内外で行える環境を整えることが重要。

2.施策の現状把握　【ＤＯ】

（1）主な事業実績

○新規不登校者を生み出さない取組み
・学校教育アドバイザーによる学校訪問を毎月行う（年間90回）
・全中学校に校内教育支援員を配置し、校内教育支援ルームを設置（泉南市内：中4校・小10校　※中4校・小6校常設　4校随時設置）
・毎月各校１回以上不登校担当教員と教育研究所加配職員や指導主事が面談を行い、手立ての提案や状況の変化などを確認（年間244回）
・不登校対応のノウハウを全職員に伝わるよう教育研究所加配職員発出の通信を毎月発行（年間8号）
・不登校対応等研修の実施（年間3回）
○欠席が長期化している児童生徒への取組み
・いじめ、暴力行為、不登校の三項目について各校で会議を持ち、必要に応じてＳＣ、ＳＳＷなどの専門職にも参加してもらいケース会議などを積極的に開催（小中全校14校）
・ＳＣは各中学校区に1名ずつ配置しており、ＳＳＷは市内で6名の任用。
・教育支援センター会議に参加し、各校の不登校事情など情報の共有（毎月実施）

（2）指標

	指標名	単位	令和５年度実績	令和６年度実績	令和９年度目標	達成度
指標①	SC・SSW１人当たりの相談件数	件	SC:274 SSW:320	SC:272 SSW:585	SC:240 SSW:240	
指標②						
指標③						

	事務事業名	単位	決算額			予算額
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事務事業費①	教育推進事業	千円	102,101	100,611	146,681	574,020
事務事業費②		千円				
事務事業費③		千円				

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価

自己評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（２）取組の主な成果と課題

【成果】
・中学校には、校内教育支援員を配置することで校内教育支援ルームを常設でき、不登校傾向の生徒に対して早期対応を行うことができた。
・早期の段階からSC,SSWなどの専門職の知見を参考に対応できるように学校訪問や連携を促すことで、直接家庭と専門職がつながるだけでなく、教職員から専門職に積極的に相談する機会が増えた。
・学校と教育支援センターを併用して利用する児童生徒もおり、柔軟なセンターの利用を児童生徒が自ら選択することにより、不登校傾向だった児童生徒が学校復帰につながった事例もあった。

【課題】
・校内教育支援員が配置できていない小学校では校内教育支援ルームの常設が難しい学校もあり、新規不登校児童に対して居場所の提供に至らなかった可能性がある。
・管理職及び担当者に対して、教育支援センターと協力し校内教育支援ルームならびに不登校児童生徒の居場所づくりのための研修を行う必要がある。
・年間30日以上の欠席生徒のうち最優先の対応が必要な全欠生徒を含め90日以上欠席の生徒が50%を超えている。そのため、毎月３日程度の欠席を繰り返し欠席日数が年間30日以上となる可能性がある児童生徒に対して、早期に十分な手立てを打つことができていないと考えられる。

（３）泉南市教育委員会評価委員会の評価

評価委員会評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（４）泉南市教育委員会評価委員会の主な意見

・SSWの相談件数が増えているのは相談体制ができていると考える。これを維持していただきたい。
・校内教育支援員を中学校のみではなく小学校にも配置できるよう努めていただきたい。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

・早期の段階からSC,SSWなどの専門職の知見を参考に対応できる相談体制の維持継続をおこなう。また、小学校でも不登校傾向のある児童の居場所づくりとして校内教育支援ルームを開設できるように進める。そのために、校内教育支援員を小学校にも配置するように努める。

点検・評価の重点項目評価調書　8

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課（　教　育　総　務　課　）

基本方針	3	安全・安心な教育環境を整備する
施策項目	2	泉南市立小中学校再編計画の推進と開かれた学校づくり
泉南っ子 日本一宣言		あきらめずに夢にチャレンジする 泉南っ子
		チャレンジして学び、できるを増やす 泉南っ子
	○	あいさつで人とのつながりを切り開け!!泉南っ子
	○	安心安全と笑顔をみんなに 泉南っ子
	○	海のような広い心をもつ 泉南っ子

（１）施策の概要

・（仮称）西信達義務教育学校等の整備
・小中一貫教育の推進に向けた泉南市立小中学校再編計画の内容周知、第２期以降の計画推進

（２）前年度までの主な課題

・（仮称）西信達義務教育学校等整備事業は、事業費や施設規模の精査、教職員からの意見聴取、（仮称）西信達義務教育学校等整備事業者選定委員会などを行い、事業者の募集、入札、契約を進める必要がある。
・泉南市立小中学校再編計画の推進に向け、小中学校施設の老朽化に対する取り組みが必要。また、児童生徒数の減少、事業費の高騰及び泉南市の財政状況を踏まえ、今後のスケジュールの精査が必要。

2.施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）主な事業実績

（仮称）西信達義務教育学校の整備を進めるため、設計施工一括発注方式により事業者と契約を締結した。
○教職員や関係各課からの意見聴取
・令和５年度に策定した学校基本計画をもとに必要となる施設整備内容、仕様となる要求水準書を作成
○（仮称）西信達義務教育学校等整備事業者選定委員会開催
・施設等整備に係る要求水準書、落札者決定基準等の作成、事業者の公募・現地見学会の開催、総合評価一般競争入札による事業者の選定などを実施
・期間は、令和６年６月から令和７年３月まで（３回）
○落札事業者と契約締結
・令和７年１月から落札事業者と契約締結の協議を行い、２月に仮契約を締結
・令和７年３月議会に工事請負等契約締結議案を提出
・令和７年３月下旬、議会の議決を受け設計業務、工事請負、工事監理契約を締結
・予定価格7,040,952千円（税込）、契約金額6,655,000千円（税込）

（２）指標

	指標名	単位	令和５年度実績	令和６年度実績	令和９年度目標	達成度
指標①	小中一貫校整備校数	施設	0	0	1	0.00%
指標②						
指標③						

	事務事業名	単位	決算額			予算額
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事務事業費①	小中一貫教育推進事業	千円	―	26,117	26,904	―
事務事業費②	（仮称）西信達義務教育学校等整備事業	千円	―	―	―	388,642
事務事業費③						

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価

自己評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（２）取組の主な成果と課題

【成果】
・教職員や関係各課からの意見聴取を行い、必要となる施設整備内容を取りまとめることができた。
・（仮称）西信達義務教育学校等整備事業者選定委員会などを実施し、最優秀提案者を決定した。
また、議会の議決を受け、実施事業者との契約締結が完了した。
【課題】
・令和７年度は提案内容、事業費を精査した上で、教職員や関係各課との意見交換を行い、よりよい学校整備となるよう設計協議を進める。
・事業を円滑に進めるため既存施設の先行解体、仮設校舎の整備内容について協議を行い、安全に配慮した上で工事を実施する。
・令和１０年４月の学校開校に向け、引き続き事業を進めていく必要がある。

（３）泉南市教育委員会評価委員会の評価

評価委員会評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（４）泉南市教育委員会評価委員会の主な意見

・児童生徒はもちろん保護者や地域の方の意見を聞き、中身も含めて素晴らしい施設を作っていただきたい。
・開校後困ることが無いよう、泉南中学校改築、幼稚園２園化の経験を踏まえ、教職員からも意見を聴取していただきたい。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

・（仮称）西信達義務教育学校等整備事業者の決定に伴い、施設や設備内容について、教職員や多機能施設担当者の意向を確認・精査し、令和10年４月の開校に向けて事業を進めていく。
・仮設校舎の建設、既存校舎の先行解体によってグラウンドが狭くなるため、授業やクラブ活動にできるだけ支障が出ないよう配慮を行う。
・学校施設使用中の工事となるため、児童生徒、教職員等の安全に十分配慮し、工事を進めていく。

点検・評価の重点項目評価調書　9

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課（　教　育　総　務　課　）

基本方針	3	安全・安心な教育環境を整備する
施策項目	4	安全で快適な教育環境の整備
泉南っ子 日本一宣言		あきらめずに夢にチャレンジする 泉南っ子
		チャレンジして学び、できるを増やす 泉南っ子
		あいさつで人とのつながりを切り開け!!泉南っ子
	○	安心安全と笑顔をみんなに 泉南っ子
		海のような広い心をもつ 泉南っ子

（１）施策の概要

・幼稚園施設及び小中学校施設の充実と適切な保全維持
・学校施設の機能確保、保持のために必要な保全及び教育環境改善に向けた修繕、工事を行う。また、工事に向けた実施設計などを行う。

（２）前年度までの主な課題

・小中学校及び幼稚園の安全性及び快適性の確保は極めて重要な課題。
・施設の老朽化が進んでいる。突発的な対応は困難な面もあるが、安全確保のため優先順位付けと予算確保が必要。
・夏季における熱中症対策のため、空調設備未設置の特別教室及び屋内運動場に空調整備設置を進めることが必要。
・施設や設備は、計画的な補修や更新計画の作成などを行い、破損や故障を未然に防ぐ取組が必要。

2.施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）主な事業実績

○学校施設等修繕
・修繕件数：小学校111件、中学校50件、幼稚園16件
・主な内容：段差解消、グラウンド、植栽、屋根、教室、天井、空調、誘導灯、防火扉、職員室LAN、遊具、庇などの修繕
○机天板交換
・交換枚数：800枚
・実施校数：小学校7校（対象学年：5、6年生）
○工事設計委託
・信達小学校給水管改修工事設計委託
・各小中学校屋内消火栓設備他改修工事設計委託
・旧鳴滝第１小学校他除却工事設計委託
○東小学校屋内運動場トイレ改修工事
○各小中学校特別教室空調設備設置工事：10校、29教室
○各小中学校屋内運動場空調設備他設置工事設計委託：14校
○LED照明器具借上　11校

（２）指標

	指標名	単位	令和５年度実績	令和６年度実績	令和９年度目標	達成度
指標①	照明ＬＥＤ化が完了した市立小中学校園	施設	14	14	16	87.50%
指標②						
指標③						

	事務事業名	単位	決算額			予算額
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事務事業費①	小学校施設保全整備事業	千円	79,232	41,113	218,884	633,060
事務事業費②	中学校施設保全整備事業	千円	23,406	43,260	90,064	208,223
事務事業費③	幼稚園施設保全整備事業	千円	1,675	4,111	3,656	3,957

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価

自己評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（２）取組の主な成果と課題

【成果】
・学校施設の機能確保、保持のために必要な保全及び教育環境改善に向け修繕、管理委託などを行った。
・机天板交換は、現行の児童机より大きな天板サイズに交換することで教育環境の向上につなげることができた。
・東小学校屋内運動場トイレ改修工事は、トイレの洋式化、バリアフリートイレの設置を行い、児童が利用しやすい教育環境を整備することができた。
・特別教室の中で利用頻度が高い音楽室、理科室、図工室などに空調設備を整備し、教育環境向上させることができた。

【課題】
・児童生徒机の天板交換事業は、継続して実施していく必要がある。
・小中学校屋内運動場の空調設備設置工事設計委託業務など予定していた設計委託業務が完了したため、必要となる予算を確保し、空調設備設置工事などの工事を実施する。

（３）泉南市教育委員会評価委員会の評価

評価委員会評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（４）泉南市教育委員会評価委員会の主な意見

・学校園照明のLED化が、ほぼ完了していることはすばらしいことである。
・安全で快適な教育環境の整備として、熱中症対策が求められている。特別教室の空調設備設置に続き、屋内運動場への空調設備設置を進めていただきたい。
・建物の老朽化や保全、児童生徒の教育環境をよくするためにこれからも尽力いただきたい。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

・令和７年度に14小中学校屋内運動場への空調設備設置工事を行う。
・施設の老朽化状況を確認し、子どもの安全と快適性を確保するため、適切な維持管理及び保全に努める。
・大規模な改修工事については、優先的に修繕を行う施設を精査したうえで、適切な予算確保に努める。

点検・評価の重点項目評価調書　10

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課（　文　化　振　興　課　）

基本方針	4	生涯学習を推進する
施策項目	2	社会教育の充実
泉南っ子 日本一宣言		あきらめずに夢にチャレンジする 泉南っ子
	○	チャレンジして学び、できるを増やす 泉南っ子
		あいさつで人とのつながりを切り開け!!泉南っ子
		安心安全と笑顔をみんなに 泉南っ子
		海のような広い心をもつ 泉南っ子

（1）施策の概要

・地域情報拠点としての図書館の充実
　地域の課題解決や、生涯学習、教養文化の向上に役立つ資料や情報を収集し、提供する。
　生涯学習拠点としてすべての人への学習機会の提供、居場所やサードプレイスとしての機能充実を図る。
・読書活動の推進
　図書、視聴覚資料、郷土行政資料、バリアフリー資料、多言語資料等の幅広い資料を収集し、提供する。
　全世代に対する読書の興味・関心を高める企画展示、各種行事や講座を開催する。
　子育て支援、高齢者支援等のサービスの充実、学校・園等への団体サービスの充実を図る。

（2）前年度までの主な課題

・図書館サービスの更なる充実を図る際、市民ニーズに応えることを意識した施策展開を行う必要がある。
・自動車図書館の安定したサービスの維持、提供のため、車両更新の検討を行う必要がある。
・各年代向けのサービスと図書館からの情報発信をより強化し、地域の情報拠点としての役割を果たしていく必要がある。
・各事業を継続、発展させ、図書館が市民の大切な居場所となるよう、多様なサービスを提供する取組を進めていく必要がある。

2.施策の現状把握　【ＤＯ】

（1）主な事業実績

○地域の情報拠点の整備として、資料の収集、提供や調査相談等を実施した。
・利用者数 88,571人、貸出者数 53,105人、貸出冊数 303,972冊
・自動車図書館の運営（定例巡回363回、特別巡回18回）、社会見学・職業体験等の受入れ（24回）
○読書活動推進事業（図書館・文化ホール開館40周年記念事業）として、以下の事業を実施した。
・特別行事（図書館・文化ホール開館40周年記念メインイベント「アルパとお話」82人、多言語のおはなし会40人、おこづかい講座44等：計11件17回452人）、定例行事（乳幼児おはなし会等：計4件52回513人）
・こども読書週間事業（春のこどもまつり32人、ぬりえ配布）、秋の読書週間事業（リサイクル市398人、ボランティア共催おはなし会38人）
・市民協働事業（ジュニア司書クラブ24回、図書館応援団活動4グループ105回、ブックスタート12回：計6件141回）、連携事業（出張絵本講座5回、出張おはなし会7回、泉南市子育てフォーラム、夏休み居場所事業10小学校、JETまつりや公民館人形劇公演への出張図書館、連携展示等）
・特集展示（非核平和等、年間120以上のテーマで実施）
・その他企画（本を借りてガチャで商品をあてよう、my推し本はコレだ！募集）等
○居場所やサードプレイスの機能充実として、以下の事業を実施した。
・きらめきサポーター活動 38日、自習室の開設（236日、1,529人）

（2）指標

	指標名	単位	令和５年度実績	令和６年度実績	令和９年度目標	達成度
指標①	人口一人当たりの図書館の年間利用回数	回	1.53	1.53	1.60	95.6%
指標②	人口一人当たりの年間図書貸出冊数	冊	5.21	5.25	5.00	105.0%
指標③						

	事務事業名	単位	決算額			予算額
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事務事業費①	図書館運営事業	千円	18,107	19,456	18,594	20,257
事務事業費②	子どもの居場所づくり事業	千円	300	300	0	0
事務事業費③	地域共生のまちづくり推進事業	千円	590	0	0	0

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価

自己評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（２）取組の主な成果と課題

【成果】
・自動車図書館の運営については、17か所への月2回の定期巡回に加え、学校、園、地域フォーラム等への特別巡回を行い、来館が困難な方への貸出等のサービスを提供することができた。
・図書館・文化ホール開館40周年記念事業として、文化ホール指定管理者との共催事業をはじめ、多様なイベントの開催や企画展示を実施し、多くの方に参加していただくことができた。
・関係各課、団体と連携した事業や市民協働事業の中で、ボランティアや小中学生の意見を反映した事業を行い、効果的な運営を行った。
【課題】
・自動車図書館の安定したサービスを維持、提供するため、老朽化している車両の更新が課題である。
・持続可能な図書館運営のため、各事業やイベント等の見直しや、職員の次世代育成を図る必要がある。
・幅広い年代層へ、更なる利用促進をするため、あらゆる場や媒体を活用した積極的な情報発信の強化が必要である。

（３）泉南市教育委員会評価委員会の評価

評価委員会評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（４）泉南市教育委員会評価委員会の主な意見

・図書館の利用状況が横ばいになっているため、利用者数、貸出冊数増加に向けた取組を検討していただきたい。
・図書館の自習スペースの利用者数が増えていることはすばらしいことである。
・自習スペースは求められている機能の一つだと思う。限られたスペースの中であるが、工夫して利用者のニーズに応えていただきたい。
・学力向上や夏季における熱中症対策など、自習スペースのニーズはもっと増えてくる。公民館なども利用し、夜まで開館するなどの工夫が必要となる。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

・図書館に来館しにくい方々の為に自動車図書館で各地域に出かけ、個人、団体への貸し出しを引き続き行う。このサービスを維持、発展させるため、老朽化している車両の更新を進める。同時に引き続き幅広い年代層への更なる利用促進のため、あらゆる場や媒体を活用した積極的な情報発信の強化を図る。また電子図書導入の検討を行う。
・自習室については、図書館での開設日枠を増やすことが困難なため、令和７年10月から樽井公民館での自習室常設の開始に合わせて、図書館に自習室が開設できない日は図書館窓口において樽井公民館自習室の案内を徹底し、文化振興課所管施設開館日には市内のどこかで自習ができるようにすることで、子どもの居場所及び学力向上のための自習学習の場を提供する。

点検・評価の重点項目評価調書　11

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課（　文　化　振　興　課　）

基本方針	4	生涯学習を推進する
施策項目	2	社会教育の充実
泉南っ子 日本一宣言		あきらめずに夢にチャレンジする 泉南っ子
	○	チャレンジして学び、できるを増やす 泉南っ子
		あいさつで人とのつながりを切り開け!!泉南っ子
		安心安全と笑顔をみんなに 泉南っ子
		海のような広い心をもつ 泉南っ子

（1）施策の概要

○市民の文化活動の推進
・文化ホールを市民の文化活動に寄与し、市民生活の向上と文化及び芸術の普及及び振興を図るため、指定管理者による管理運営を効果的・効率的かつ安定的に行い、市民サービスの向上を図る。
・施設利用者が安全・安心に各サービスを利用できるよう適切に施設維持管理を行う。
・地域の団体と連携し、市民の文化芸術活動の促進のため、自主事業と貸館事業を行う。
・庁内各課や学校・園等と連携して、市主催のイベントや各種式典の開催を行う。

（2）前年度までの主な課題

・地域性や市民のニーズを把握し、文化ホールを本市の文化の拠点として、地域に根差した文化振興施策に取り組む。
・指定管理者単独で行う自主事業に加えて、様々な市民団体、図書館とも協働し、人権、子育てなど幅広い分野での事業を展開する。
・建物、ホール内だけでなく施設全体を活用した、特に中庭の部分を利用してキッチンカーなどを入れ、参加者が敷地内で飲食を楽しめるような企画や様々な団体との共同企画を行う。
・利用者が安全・安心にサービスを利用できるよう適切に施設の維持管理を行う。

2.施策の現状把握　【ＤＯ】

（1）主な事業実績

○年間利用者件数・利用者数
・ホール、関連諸室（513件、22,712人）、展示室（188件、6,710人）　計701件、29,422人
○自主事業（図書館・文化ホール40周年記念事業）実施
・ホール（瀬戸内寂聴「99年生きて思うこと」映画上映、こどもたちのためのコンサート、市民合唱祭、敬老月間恒例企画「お好み演芸会」、ふれあいコンサート2回、人権週間「市民の集い」、スタジオオレンジ・きらめき舞踊団発表会：8件、2,555人）
・展示室　（アルパとお話、親子で学ぶおこづかい講座、市民作品展2回：4件775人）
計12件3,330人
○施設の修繕、備品の更新等
・指定管理者による修繕等：空調機フィルター交換、多目的トイレセンサー交換等
・教育委員会による改修工事等：外壁・屋上防水改修工事、ブロック塀改修工事、空調設備（冷温水機）修繕
・教育委員会による備品購入：展示パネル23台更新、消火器51本更新
○消防避難訓練開催実績及び参加人数
・1月29日、3月6日　参加者計26人
○指定管理者との定期的意見交換会の開催 11回

（2）指標

	指標名	単位	令和５年度実績	令和６年度実績	令和９年度目標	達成度
指標①	人口一人当たりの文化ホールの年間利用回数	回	0.47	0.51	0.50	102.0%
指標②						
指標③						

	事務事業名	単位	決算額			予算額
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事務事業費①	文化ホール指定管理事業	千円	34,713	35,744	35,316	32,137
事務事業費②	文化ホール協議会事業	千円	0	38	0	90
事務事業費③	図書館文化ホール改修事業	千円	0	2,717	54,835	5,400

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価

自己評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（２）取組の主な成果と課題

【成果】
・図書館・文化ホール開館40周年記念事業として、図書館との共催事業をはじめ、指定管理者単独事業の他、各種団体との連携事業等を実施し、多くの市民に多様な文化や芸術に触れる機会を提供することができた。人権週間「市民の集い」では、様々な団体との共同企画で、ホールや展示室だけでなく、ロビーや中庭でのキッチンカー等での飲食物販売や自動車図書館の貸出サービス、体験プログラムの実施等、参加者が飲食を楽しめる工夫やにぎわいづくりを行った。
・老朽化していた展示パネル23台を更新し、貸館事業や自主事業の展示会等で活用することができた。
・施設の維持管理については、リスク分担に基づき、指定管理者は緊急性の高いものから順次実施した。教育委員会では、図書館文化ホール改修事業として、外壁・屋上防水改修、ブロック塀改修の２件の改修工事のほか、空調設備（冷温水機）修繕等を行い、事故等を防ぎ、施設利用者をはじめ地域住民の安全・安心な環境を整備することができた。
・指定管理者と教育委員会文化振興課との定期的意見交換会等の協議開催により、お互いの意思疎通を図り、施設や事業のチェック体制強化を行った。
【課題】
・市民が多様な文化や芸術にふれる機会を充実させるとともに、地域の関係団体との連携を拡げ、より一層市民の文化芸術活動の促進を図れるよう工夫する必要がある。
・利用者が安全、安心にサービスを利用できるよう適切に施設の維持管理をする必要がある。

（３）泉南市教育委員会評価委員会の評価

評価委員会評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（４）泉南市教育委員会評価委員会の主な意見

・文化ホール開催イベントのチラシで、何を行うのかあまり分からないものがあったり、足を運んで初めてプログラムがもらえて内容がわかるようなものがあった。イベント内容やプログラムの発信の仕方によって、盛り上げることもできると思うのでもっと内容を発信していただきたい。
・文化ホールの空調改修工事を早急に進め、講演等を開催する場として使用できるよう努めてほしい。また、改修工事の際にはホールの使用に支障をきたすことがないよう努めていただきたい。
・文化ホールのロビーが暗いと感じる。明るくなるよう対応を検討していただきたい。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

・空調の更新については令和7年度に実施設計を行い、令和8年度に改修工事を行う予定である。改修工事の際は、使用への支障を少なくできるよう施工事業局と協議して進める。そのほか老朽化した施設についても指定管理者と綿密な協議を行い、利用者が安全、安心にサービスを利用できるよう適切に維持管理を行う。
・どのイベントでもプログラムは直前に決定されるものが多く、主催者側も来場者が特定のものだけに参加するのを避けるため、あえて詳細な内容を公表しないようにしているところもある。指定管理者が行う自主事業だけでも可能な限り事前にプログラム等を公表することで、イベントの詳細内容を周知することを進める。
・市民が多様な文化や芸術にふれる機会を充実させるとともに、地域の関係団体との連携を拡げ、指定管理者と協議し、より一層市民の文化芸術活動の促進を図れるよう推進する。
・ロビーの照明についは、令和７年度にLED化する計画である。

点検・評価の重点項目評価調書　12

担当課（　生　涯　学　習　課　）

1.基本的事項　【PLAN】

基本方針	4	生涯学習を推進する
施策項目	3	スポーツ活動の推進
泉南っ子 日本一宣言	○	あきらめずに夢にチャレンジする 泉南っ子
	○	チャレンジして学び、できるを増やす 泉南っ子
		あいさつで人とのつながりを切り開け!!泉南っ子
		安心安全と笑顔をみんなに 泉南っ子
		海のような広い心をもつ 泉南っ子

（1）施策の概要

・「ワールドマスターズゲームズ2027関西」において、泉南市で開催するオープンウォータースイミング競技の実施に向けた準備及び機運醸成のためのオープンウォータースイミング大会の開催
・市民のだれもがスポーツに親しむことができる環境づくりのために、指定管理により適切な市民体育館等の運営を行う。
・国際的及び全国的規模の競技会等に出場・出展する本市の子どもに泉南っ子スポーツ・文化芸術振興奨励金等を交付することにより、スポーツ活動の推進、競技力の向上及び文化芸術の振興を図るとともに、市全体のスポーツと文化芸術に関する機運を醸成する。

（2）前年度までの主な課題

・ワールドマスターズゲームズについては、関連する他団体等と協働して行うことも検討。
・市民体育館指定管理事業については、安全面等を考慮し、優先順位の高いものから順次修繕を実施。
・泉南っ子応援事業については広く周知が必要。

2.施策の現状把握　【DO】

（1）主な事業実績

・ワールドマスターズゲームズ関西・オープンウォーター競技大会開催事業では、「ワールドマスターズゲームズ2027関西」の開催に向けての機運醸成のため、令和6年10月5日に泉南オープンウォータースイミング大会2024を開催した。
（令和6年度実績）　参加申込数467名
当日参加者431名
・市民体育館では誰もがスポーツに親しむことができる環境づくりのために、指定管理者により施設の運営に加え、各種スポーツ教室やイベントを実施した。また、アンケート調査により利用者ニーズの把握に努めた。
・泉南っ子応援事業では、令和6年度からオリンピック・パラリンピック出場枠を拡充し、全国大会等に出場・出展する本市の子どもに泉南っ子スポーツ・文化芸術振興奨励金を交付した。
（令和6年度実績）　個人-全国　23件　個人-国際　４件
団体-全国　２件

（2）指標

	指標名	単位	令和５年度実績	令和６年度実績	令和９年度目標	達成度
指標①	オープンウォータースイミング大会の参加者数	人	301	431	900	47.9%
指標②	市民体育館利用者数	人	40,332	40,655	37,000	109.9%
指標③	泉南っ子スポーツ・文化芸術振興奨励金交付件数	件	29	29	20	145.0%

	事務事業名	単位	決算額			予算額
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事務事業費①	オープンウォーター競技大会開催事業	千円	5,000	2,000	4,500	3,754
事務事業費②	市民体育館等指定管理事業	千円	36,701	32,913	34,502	67,673
事務事業費③	泉南っ子応援事業	千円	－	1,600	1,750	4,000

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価

自己評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（２）取組の主な成果と課題

【成果】
・令和５年度から本大会が日本水泳連盟公認の大会となり、国内オープンウォータースイミングサーキットシリーズの会場として組み入れられることとなった。年々知名度が上がっており、参加者は前年と比較して1.4倍に増加することとなった。
・泉南っ子応援事業では、事業実施2年目となり、市民への周知が徐々に浸透してきた様子が見受けられた。交付件数は目標値を大きく上回り、一定の成果はあったものとみられる。今後は広報や市ウェブサイト等を活用し、一層の周知を図る必要がある。
【課題】
・キッチンカーの設置やドローンによる映像放映を導入したが、大会の観覧者は参加者の家族などが中心であり、大会自体の盛り上がりに欠けることは否めない。
・市民体育館指定管理事業では、施設の老朽化により市民から様々な要望も出ている。安全面等を考慮し、優先順位の高いものから順次修繕を実施していく必要がある。

（３）泉南市教育委員会評価委員会の評価

評価委員会評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（４）泉南市教育委員会評価委員会の主な意見

・大きなイベントであるのであらゆるメディア（SNSなど）を使って周知や有名選手の招待などに取り組んでいただき、機運を醸成していただきたい。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

・令和９(2027)年６月開催予定のワールドマスターズゲームズ（WMG）2027関西に向け、一般社団法人泉南スポーツコミッション協会（SSCA）を中心に、関西万博や各種イベントの機会に広報を行いながら、泉南オープンウォータースイミング2025大会を令和７(2025)年10月５日に開催する。今後も継続して泉南オープンウォータースイミングを開催し、にぎわいづくりも併せて行うことで、機運の醸成につなげる。
・市民体育館等については、引き続き指定管理者と連携し、市民体育館の照明設備LED化など環境の整備に努め、適切な運営を行うとともに、誰もがスポーツに親しむことのできるイベント等の実施を促進する。
・泉南っ子応援事業は、令和５年度からオリンピック・パラリンピック出場枠を拡充した。今後も継続して、市公式SNS等で周知を図り、泉南市のスポーツ活動と文化芸術の発展につなげる。

点検・評価の重点項目評価調書　13

担当課　（生涯学習課青少年センター）

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

基本方針	4	生涯学習を推進する
施策項目	4	青少年の健全育成
泉南っ子 日本一宣言	○	あきらめずに夢にチャレンジする 泉南っ子
	○	チャレンジして学び、できるを増やす 泉南っ子
	○	あいさつで人とのつながりを切り開け!!泉南っ子
	○	安心安全と笑顔をみんなに 泉南っ子
	○	海のような広い心をもつ 泉南っ子

（1）施策の概要

・講座やイベントの実施
青少年の健全育成のため、地域団体やボランティアと連携し、さまざまな体験活動ができるよう講座やイベントを実施する。
・子どもの自主活動の推進
泉南市子どもの権利条例に基づき、青少年センターの運営に子ども自身が意見を表明できるよう「みんな仲良し会議」と題した会議を開催するとともに、子どもたちで構成する「こどもスタッフ」を子どもたちの意見をもとに運営する。また子ども会議と連携を行う等、子どもの自主活動を推進する。
・YouTube動画の配信
情報発信については広報紙、webサイト、Facebook、X（旧Twitter）等を活用し文字媒体で提供しているが、動画による情報提供を追加することにより、さらにわかりやすく楽しめる情報を発信していく。

（2）前年度までの主な課題

・引き続き、子どもの自主活動の推進に取り組んでいく。
・市民ニーズを把握し、市民の要望に応える取組を充実させる。
・YouTube動画配信事業については、子どもたちが参加できる事業を優先し進めていく。

2.施策の現状把握　【ＤＯ】

（1）主な事業実績

〇講座やイベントの実施
・「家族でタケノコ掘りを楽しもう」「大阪湾生き物一斉調査」「ホタル観察会」「おうちの中で植物を育てよう」等、これまでにも需要のあった講座の開催や、図書館・文化ホール開館40周年記念ポストイベントとして、文化振興課と共催で「マドラーづくり」や「人形劇団クラルテがやってくる」を実施し、延べ34講座の事業を開催し、延べ915名の参加があった。
〇子どもの自主活動の推進
・みんな仲良し会議　6/15、7/20、9/14に開催　延べ46名の参加
・せんなん子ども会議　11回開催　延べ212名の参加
・子どもスタッフイベントとして「ウォーターパーティ」「かき氷パーティー」「みんな仲よし夏祭り」「ハロウィンイベント」「ベイブレード大会」「ポケカ大会」「クリスマス会」を開催　延べ389名の参加
〇YouTube動画の配信
・青少年センター公式チャンネルにて動画を1本配信

（2）指標

	指標名	単位	令和５年度実績	令和６年度実績	令和９年度目標	達成度
指標①	講座参加者数	人	886	915	900	101.67%
指標②	自主活動参加者数	人	637	647	650	99.54%
指標③						

	事務事業名	単位	決算額			予算額
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事務事業費①	青少年センター運営事業	千円	1,906	1,817	1,766	1,927
事務事業費②		千円				
事務事業費③		千円				

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価

自己評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（２）取組の主な成果と課題

【成果】
・講習講座事業については、「走り方教室」以外の講座は全て予定通り実施することができた。
・その他の講座については、アンケートでも96.64%が肯定的な感想を抱いており、このまま継続して実施していく。
・自主活動の推進については、これまで同様、本市子どもの権利条例前文、第6条、第7条等に則り作成した「青少年センター子どもの関わり方基本スタンス」を軸に、共感・傾聴の視点で子どもたちと積極的に関わることで、子どもたち自らが数多くのイベントを計画、主催した。
・YouTube動画配信については、子どもたちが参加できる事業を実施することを優先し、1本の動画配信を行った。

【課題】
・「走り方教室」については、講師の体調不良により直前の中止となったため、今後同様のことがないよう、複数の講師で対応可能な団体への依頼を行う等の対応を行う必要がある。

（３）泉南市教育委員会評価委員会の評価

評価委員会評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（４）泉南市教育委員会評価委員会の主な意見

・子どもたちの意見表明ができる場「みんな仲良し会議」などを開催しているのは、とてもよい取組である。
・今後も子どもたちの意見を取り入れ、安全面に気を付けて色々な企画を続けていただきたい。
・青少年センターの講座やイベントについては、SNSの利用などできるだけ周知に努力していただいている。今後もSNSを活用した情報発信、利便性を考慮した電子媒体による講座の申し込みを実施していくなど努めていただきたい。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

・「青少年センターあり方基本方針」や「青少年センター子どもの関わり方基本スタンス」を共有し、定期的に見直しを行い、子どもたちとの過ごし方について、理解を深めていくことで、これまで以上に子どもたちの自主的な活動の推進に努めていく。
・青少年健全育成のため、子どもを中心とした連携ができるよう、各種団体との連携やボランティアとの協働等に力を入れ、安全安心な事業実施に努める。
・より青少年センターの情報が届くように、様々な媒体で情報発信を行う。広報や館だよりでの情報発信はもとより、タイムリー且つ正確に、よりわかりやすく情報発信ができるようSNSを活用した情報発信と、利便性を考慮し、電子媒体による講座申込等を実施していく。

点検・評価の重点項目評価調書　14

1.基本的事項　【PLAN】

担当課（生涯学習課）

基本方針	4	生涯学習を推進する
施策項目	5	子どもの居場所づくりの推進
泉南っ子日本一宣言		あきらめずに夢にチャレンジする 泉南っ子
		チャレンジして学び、できるを増やす 泉南っ子
	○	あいさつで人とのつながりを切り開け!!泉南っ子
	○	安心安全と笑顔をみんなに 泉南っ子
	○	海のような広い心をもつ 泉南っ子

（1）施策の概要

○留守家庭児童会の運営
・放課後や学校休業期間の日中、労働等により保護者等が家庭にいない児童に対して、衛生及び安全が確保された専用施設等を利用して適切な遊び及び生活の場を提供することにより、子どもたちの健全育成、自立支援及び子育て支援を図ることを目的として実施する。
　市内９小学校内の10か所で開設。

（2）前年度までの主な課題

・留守家庭児童会支援員等の安定的な確保と支援員等のスキル及び人権意識向上のため、継続的な研修の実施。
・安全な施設を維持するため、老朽化した施設へ修繕対応及び児童にとって快適な空間を確保。
・多様化する保護者ニーズへの対応。
・共働き世帯の増加等に伴う、待機児童解消施策の実施。

2.施策の現状把握　【DO】

（1）主な事業実績

学校稼業日は、下校後から17：00（延長18：00または19：00）まで、土曜日及び学校長期休業期間中は、9：00（延長8：00）から17：00（延長18：00または19：00）まで留守家庭児童会を開所し、児童の適切な遊びや生活の場となるよう支援を行った。
（1）留守家庭児童会支援員等に人材派遣業務委託を実施した。
　①人材派遣業務委託（有資格者）3,539,935円
　②シルバー人材センター164,682円
（2）留守家庭児童会の支援員等にスキルアップ及び人権意識向上のための研修等を実施した。
　①資質向上研修　３回　参加者数（延べ）116名
　②放課後児童支援員認定資格研修所持率　74.4%
（3）留守家庭児童会施設の適切な維持保全を行った。
　①新家・雄信留守家庭児童会床改修　991,430円
　②鳴滝留守家庭児童会外壁修繕　289,520円
　③砂川留守家庭児童会空調設備改修　2,387,000円
　④雄信留守家庭児童会屋根漏水修繕　259,600円
　　その他、軽微な修繕等も実施
（4）利用者ニーズを把握するため、保護者及び児童を対象としたアンケートを実施した。
　①実施期間　令和7年1月6日～1月27日
　②回答者　　保護者179名、児童350名
（5）　避難訓練・不審者訓練を実施した。（２回）
（6）以前から課題となっていた、信達留守家庭児童会の待機児童解消のため、信達第二留守家庭児童会開設に向けて協議、調整を行い設計委託に係る予算を確保した。

（2）指標

	指標名	単位	令和５年度実績	令和６年度実績	令和９年度目標	達成度
指標①	（第３次泉南市教育振興基本計画で指標の記載なし）		―	―	―	―
指標②						
指標③						

	事務事業名	単位	決算額			予算額
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事務事業費①	留守家庭児童会運営事業	千円	12,201	17,618	19,809	24,611
事務事業費②		千円				
事務事業費③		千円				

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価

自己評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（２）取組の主な成果と課題

【成果】
・人材派遣業務委託を実施したことにより、留守家庭児童会の運営に支障をきたすことなく運営することができた。
・施設の適切な維持、修繕を行うことで安全・安心な環境を提供できた。
・留守家庭児童会を開所し、留守家庭児童会支援員等が支援することで、利用児童に適切な遊びや生活の場を提供できたとともに、利用児童の保護者が安心して働くための一助となった。
・留守家庭児童会支援員等に「児童クラブの安全性と安全管理」「発達に特性を持つ子ども支援を学ぶ」研修を実施することで、自身の業務を再認識するとともに、適切な支援のためのスキルアップにつながった。
・人権研修として「子どもの権利を学び、子どもの声を聴く」研修を実施した。令和７年度以降も継続して実施していく。
【課題】
・保護者及び児童を対象としたアンケートを実施したため、利用者ニーズを把握することができた。アンケートを継続して実施することにより、ニーズを的確に把握し、順次対応に努める。
・課題である待機児童解消については、信達第二留守家庭児童会の令和９年度開設に向け、工事担当部署等との綿密な調整を実施し、児童が快適に過ごせる場を提供できるよう準備を進めていく。

（３）泉南市教育委員会評価委員会の評価

評価委員会評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（４）泉南市教育委員会評価委員会の主な意見

・全国的に留守家庭児童会の待機児童が増えているようである。令和９年度に新しい留守家庭児童会ができるということだが、現在待機している児童に対して何か対策を検討していただきたい。
・保護者目線での意見だけでなく、子ども目線の意見も取り入れ運営していただきたい。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

・現在待機している児童に対して、青少年センターで行われている放課後の居場所づくりのチラシ等を配布し、青少年センターの利用を促していく。
・児童に衛生的で安全が確保された生活の場を提供できるよう環境整備に取組むことはもとより、保護者及び児童を対象としたアンケートを今後も継続的に実施し、利用者ニーズを把握することで保護者及び児童が望む留守家庭児童会運営を目指す。
・全ての留守家庭児童会の待機児童の解消を目指す。そのため、各留守家庭児童会の個々の現状を正確に把握し、待機児童数の減少及び解消のため、他部署と連携を図り対策を検討する。また、泉南市立小中学校再編計画に基づき、今後の各留守家庭児童会を見据えながら運営していく。
・留守家庭児童会支援員の資質向上のため、研修を継続的に実施する。資質向上研修は、支援員の人権意識向上のための人権研修、災害や不審者対応などの有事を想定した訓練など、支援員に必要とされる内容の研修を計画的に実施していく。

点検・評価の重点項目評価調書　15

担当課　（生涯学習課青少年センター）

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

基本方針	4	生涯学習を推進する
施策項目	5	子どもの居場所づくりの推進
泉南っ子 日本一宣言	○	あきらめずに夢にチャレンジする 泉南っ子
	○	チャレンジして学び、できるを増やす 泉南っ子
	○	あいさつで人とのつながりを切り開け!!泉南っ子
	○	安心安全と笑顔をみんなに 泉南っ子
	○	海のような広い心をもつ 泉南っ子

（1）施策の概要

・子どもの居場所づくり事業の実施
　子どもの安全で安心な居場所づくりのため、平日の放課後や土曜日においては青少年センター、市民交流センター別館で児童館事業を実施する。また、平日放課後においては市内の小学校に出向き、アウトリーチ型の居場所事業「遊び広場」を実施する。
・夏休みの子どもの居場所づくり事業の実施
　学校が長期休業となる夏休みの子どもの安全で安心な居場所を提供するため、図書館、埋蔵文化財センター、青少年センターの社会教育施設3館と、人権国際教育課とタイアップをした「こども遊び広場」を市内全小学校で実施する。

（2）前年度までの主な課題

・居場所事業参加者の安全面を考慮した人員配置について検討する。
・居場所づくりの実施については、子どもたちが安全に安心して遊べる場所として評価いただいた。

2.施策の現状把握　【ＤＯ】

（1）主な事業実績

1．児童館事業の実施
・放課後や土曜日、長期休業中等に、自身が選んだ遊びを自由にでき、安全に安心して過ごせるこどもの居場所として、青少年センター、市民交流センター別館で児童館事業を実施した。子どもたちが休息と余暇、遊び、学び等の提供を受けることができる環境を整え、傾聴・共感の姿勢で関わりをもった。
・実施回数：青少年センター290回、市民交流センター別館288回
・参加延べ人数：青少年センター9,477名、市民交流センター3,601名
2．遊び広場の実施
・市内全10小学校で遊び広場を実施した。
・実施回数：82回
・参加延べ人数：5,380名
3．夏休みの子どもの居場所づくり事業の実施
・市内全10小学校で夏休みの子どもの居場所づくり事業を実施した。
・実施回数：10回
・参加延べ人数：177名

（2）指標

	指標名	単位	令和５年度実績	令和６年度実績	令和９年度目標	達成度
指標①	遊び広場参加者満足度	%	99.2	99.0	90.0	110.00%
指標②	夏休みの子どもの居場所づくり事業参加者満足度	%	95.0	96.6	90.0	107.33%
指標③						

	事務事業名	単位	決算額			予算額
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事務事業費①	青少年センター運営事業	千円	1,906	1,817	1,766	1,927
事務事業費②	子どもの居場所づくり事業	千円	828	608	920	1,119
事務事業費③		千円				

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価

自己評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（２）取組の主な成果と課題

【成果】
・前年度に引き続き、青少年センター及び市民交流センター別館での児童館事業を予定通り提供することができた。来館者も口コミでの広がりがあり、両館とも昨年度と比べて1.5倍の来館者とかなり増加している。
・来館者の安心できる居場所となるよう、安全面に十分配慮し、また安心な居場所は環境だけではなく、子どもの最善の利益を原則に、子どもたちが自らの意見を表明し、青少年センターの運営に参画できる居場所となるよう、子どもたちとの関わりを築いてきた。
・市内全ての小学校で遊び広場及び夏休みの子どもの居場所づくり事業を実施し、子どもたちに豊かな学びを当年度も提供することができた。社会教育施設それぞれが各施設を紹介することで、日常の居場所につなげる機会を提供することができた。
【課題】
・常設型の居場所事業を2か所開催と併せてアウトリーチ型の居場所を展開する際、3か所同時開催となるため、利用者・参加者の安全面を配慮するにあたり、人的なサポートが必要となる。そのため、関係団体等との連携をより綿密にし、協力をいただく必要がある。また青少年センターのボランティアサポーターへ積極的に働きかけ、同様に安全面でのサポートに協力をしていただく。

（３）泉南市教育委員会評価委員会の評価

評価委員会評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（４）泉南市教育委員会評価委員会の主な意見

・居場所（自習室等）として、青少年センターだけではなく図書館、公民館等があるが、連携をとっていただき、「ここが満室でも、あちらが空いている」というような案内をしていただきたい。
・子どもの居場所は徒歩圏内で実施できることが大切であるため、引き続き、色々な施設で開催していただきたい。
・少ない職員で様々な事業、取組は大変な事だと思うが、取組を継続していただきたい。
・有償ボランティアなど、地域に協力いただき運営している自治体もあるようである。職員以外にも運営に協力いただける方法を探り、検討していただきたい。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

・自習室については、各施設で発信している情報掲示をはじめ、必要に応じて案内等を進め、漏れることがないように対応していく。
・これまで同様、子どもを中心にした安全で安心な居場所となるよう、地域コミュニティを意識した様々な人びととの協働により、子どもたちへの支援を進めていく。
・子どもたちが一番多く集まる夏休み期間等については、学生有償ボランティアをはじめ、会計年度任用職員の新たな採用等も検討し、安全で安心な居場所を継続する。
・夏休みの子どもの居場所づくり事業の実施については、内容や実施期間等の精査に努め、より子どもたちが満足できるプログラムについて検討していく。

点検・評価の重点項目評価調書　16

担当課　（人権国際教育課）

1.基本的事項　【PLAN】

基本方針	5	市を挙げて教育施策の推進体制を確立する
施策項目	1	子どもの権利に関する条例の推進
泉南っ子 日本一宣言	○	あきらめずに夢にチャレンジする 泉南っ子
	○	チャレンジして学び、できるを増やす 泉南っ子
	○	あいさつで人とのつながりを切り開け!!泉南っ子
	○	安心安全と笑顔をみんなに 泉南っ子
	○	海のような広い心をもつ 泉南っ子

（1）施策の概要

泉南市子どもの権利に関する条例に基づき、条例の目的である「子どもにやさしいまち」の実現のための事業を推進する。
・泉南市子どもの権利に関する条例第５条「せんなん子ども会議」の運営支援及びメンバーによる運営を可能とする仕組みづくりの構築
・泉南市子どもの権利に関する条例第８条「子どもの権利に関する学習と教育」の充実
※令和６年度より、子どもの権利条例委員会に係る庶務が子ども政策課に移管されたことに伴い、子ども会議に係る事務事業費を人権教育推進事業費に統合

（2）前年度までの主な課題

・各学校園で毎年度実施されている子どもの権利に関する授業等について、発達段階に応じた学習内容の系統性を、中学校区単位で整理・検討する必要がある。
・学校園の日常活動における子どもの意見表明や参加の取組について、現在進められている優れた実践例を広く紹介し、学校運営の中に意見表明や参加の視点を更に浸透させていくことが求められる。
・「子どもの権利の日」に関連した限定的な取組にとどまらず、日常生活の中で大人が子どもの権利を意識し、日頃から子どもに寄り添った関わりを続けていくことが重要である。

2.施策の現状把握　【DO】

（1）主な事業実績

・【第５条】せんなん子ども会議の実施（毎月１回）
　令和６年度は年間で10回実施し、延べ95人が参加した。
　令和６年度は、SDGsの一環として不用品販売の収益をユニセフに寄付し、子どもの権利を広めるためのクイズラリーを実施した。また、３月には市長へ活動報告を行った。
・【第８条】各学校園における「子どもの権利学習」の実施
　取組内容は各学校園で発達年齢に応じて実施。
　（就学前）自分の権利が守られていない、「なんでやねん！」を出し合う。４つの権利の劇を見る。
　（小中学校）子どもの権利条約にある条文を読んで、どの権利が自分にとって大切かを考える。
　自分が大切にしたい権利について、考えをクラスで出し合いながら交流する。
　図書室に、子どもの権利に関連のある書籍を並べ、子どもたちが学びたいときに子どもの権利に関する本を読むことができる環境を整える。
・【第４条】子どもの意見表明と参加
　児童会が中心となって、イベントを企画運営する。
　学校のきまりについて話し合う。
　運動会の内容について、６年生が中心となりアイデアを出し合って決定する。

	指標名	単位	令和５年度実績	令和６年度実績	令和９年度目標	達成度
指標①	子どもの権利について知っている市立小中学校全児童生徒の割合	%	50.0	44.2	70.0	63.1%
指標②	子ども会議参加者の満足度評価の肯定的回答割合	%	94.3	98.2	90.0	109.1%
指標③						

	事務事業名	単位	決算額			予算額
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事務事業費①	子どもの権利に関する条例推進事業	千円	861	833	-	
事務事業費②	人権教育推進事業	千円			1,163	2,498
事務事業費③		千円				

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価

自己評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（２）取組の主な成果と課題

【成果】
・せんなん子ども会議では、子どもたち自身が企画したフリーマーケットやクイズラリーを実施し、当日は子ども会議以外の参加者も含めて運営を行った。実施後には、うまくいった点や改善が必要な点を子どもたち同士で話し合い、主体的に行動を振り返る経験を重ねることができた。
・各学校園では、発達段階に応じた子どもの権利学習が進められ、子どもたちの中で学びが着実に積み重なってきている。「11月の子どもの権利の日」に向けたアンケートでは、学習前にもかかわらず半数近くが子どもの権利を理解している結果が得られた。また、中学校区単位で教材や指導案を共有し、内容を統一する動きも広がっており、次年度以降は好事例をさらに全体へ波及させていきたい。
【課題】
・子どもの意見表明と参加を意識した取組が、児童会や生徒会活動を中心に各学校園で少しずつ広がってきている。教職員に対しても、この視点について学ぶ機会を用意し、学校運営の中で自然に取り入れられるように働きかけていくことが重要である。

（３）泉南市教育委員会評価委員会の評価

評価委員会評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（４）泉南市教育委員会評価委員会の主な意見

・子ども会議など子どもたちが自分たちで企画し、取り組みしていることはいいことである。
・「子どもの権利」について認知度を上げるよう努めていただきたい。
・保護者への周知も併せて努めていただきたい。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

〇せんなん子ども会議の継続と発展
・せんなん子ども会議では、引き続き子どもたち自身が主体的に企画・運営する活動を推進し、活動を振り返る経験を重ねられるよう支援を継続する。また、子ども会議の参加者だけでなく、広く市民を巻き込んだ活動を通して、「子どもにやさしいまち」の実現をめざす。
〇子どもの権利学習の系統化と波及
・各学校園で進めてきた子どもの権利学習を引き続き実施する。中学校区単位で教材や指導案を共有する動きが広がっているため、今後はこうした好事例をさらに全体に波及させ、学習内容の系統性を高める。
〇意見表明・参加機会の創出
・児童会や生徒会活動を中心に広がっている優れた実践例を広く紹介し、学校運営に「意見表明や参加」の視点がさらに浸透するよう働きかけていく。また、教職員がこの視点について学ぶ機会を設けることで、子どもが安心して意見を言える環境づくりを支援する。

点検・評価の重点項目評価調書　17

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課（教育サービス課）

基本方針	5	市を挙げて教育施策の推進体制を確立する
施策項目	3	保護者の負担軽減
泉南っ子 日本一宣言	○	あきらめずに夢にチャレンジする 泉南っ子
	○	チャレンジして学び、できるを増やす 泉南っ子
	○	あいさつで人とのつながりを切り開け!!泉南っ子
	○	安心安全と笑顔をみんなに 泉南っ子
	○	海のような広い心をもつ 泉南っ子

（１）施策の概要

〇就学援助事業
・生活保護法による要保護者に準ずる程度と認められる家庭に制度を適用し、教育費について経済的に困難を感じている保護者に対し、子どもが学校で学習するために必要な費用の一部を援助する。

（２）前年度までの主な課題

・就学援助制度認定率は年々増加傾向にあり、全体の約４分の１の方が必要としている制度であるため、しっかりと取り組む必要がある。泉南市の就学援助制度は、国や大阪府内平均と比較して高い認定率である。
・令和４年度から学校給食費及び修学旅行費の支給率を10割に引き上げたこと、小学校入学準備金の支給時期を３月末から12月に前倒ししたため、市民ニーズに応えることができた。今後も就学援助制度継続、制度周知を行う必要がある。

2.施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）主な事業実績

・令和６年度就学援助制度について（対象：市立小中学校に通う児童生徒の保護者）
①４月：就学援助制度の周知（案内及び申請書の配布）
②４～５月：申請受付
③６～７月：認定処理
④８・３月：支給処理
・小学校入学準備金について（対象：新小学校１年生の保護者）
①９月：小学校入学準備金（就学援助制度）の周知（就学時健康診断の通知に同封）
②９～10月：申請受付（スマート申請での受付及び窓口提出等）
③11月：認定処理
④12月：支給処理

（２）指標

	指標名	単位	令和５年度実績	令和６年度実績	令和９年度目標	達成度
指標①	（第3次泉南市教育振興基本計画で指標の記載なし）		―	―	―	―
指標②						
指標③						

	事務事業名	単位	決算額			予算額
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事務事業費①	小学校就学援助事業	千円	56,743	73,060	60,448	79,969
事務事業費②	中学校就学援助事業	千円	32,092	41,549	37,987	47,636
事務事業費③		千円				

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価

自己評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（２）取組の主な成果と課題

【成果】
・児童生徒数は減少傾向にあるが、就学援助認定率（５月１日現在）は増加傾向にある。令和６年度の認定率も前年度より増加しており、本制度へのニーズの高さが伺える。
・申請者や学校からの意見を基に、変更できる部分については対応し、更にわかりやすいものになるよう取組を継続する（申請書への提出期限の記載、ふりがな、多言語版の作成等）。
・令和６年度は、小学校入学準備金の申請をインターネットによるスマート申請ができるよう取組をし、保護者の利便性を向上させた。
【課題】
・子どもたちを取り巻く家庭の経済的状況は依然として厳しく、小中学校ともに本制度の必要性はますます高まることが推考でき、義務教育における保護者の経済的負担を軽減させる事業として今後も継続する必要がある。
・調整区在住の方の指定校変更申立は窓口提出だったため、スマート申請者数が伸びなかった。次年度は、調整区在住者の指定校変更申立もスマート申請を導入し、更なる利便性を高めていく必要がある。

（３）泉南市教育委員会評価委員会の評価

評価委員会評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）	
Ｂ	Ａ：計画を上回った Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画を下回った

（４）泉南市教育委員会評価委員会の主な意見

・「とりあえず申請をする」という方法では膨大な業務量となる。保護者が自ら認定基準を把握し、申請してもらう方が効率的である。アナウンスの仕方を考えた方がよい。
・お金のことで学校に行きづらいということがないように、これからもこの制度を保護者が利用できるようしっかりと進めていただきたい。
・スマート申請の利用を拡大することで、申請者及び職員の負担軽減を図ることができる。今後も更なる拡大を進めていただきたい。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

・調整区在住児童の入学小学校を確定させるための指定校変更申立手続きにスマート申請を導入し、小学校入学準備金のスマート申請率の増加を期待するとともに、より簡単に手続きができるよう利便性を高める。
・申請書にも締切日を記載し、期限をより把握しやすいよう改善する。
・就学援助の案内には、年間の支給額・振込日の表記はあったが、どの援助内容がいつ、いくら振込されるのかが分かりにくかったため、分かりやすい表記に工夫する。また、翻訳版を作成し、必要に応じて使用できるよう学校に提供する。

Ⅴ　泉南市教育委員会評価委員会による意見

令和６年度事業における泉南市教育委員会事務等の点検及び評価について（意見書）

令和７年 10 月６日　泉南市教育委員会評価委員会

泉南市教育委員会評価委員会は、泉南市教育委員会が法令に基づき、毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を点検及び評価を行うに当たり、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するために設置した第三者委員会である。

私たちは、泉南市教育委員会が令和６年度に実施した事務及び事業の具体的施策の中から重点項目として抽出した 17 事業について、内容や実施状況について説明を受け、質疑応答を経て、理解を深めた上で、点検及び評価を行った。

この意見書は、令和６年度において泉南市教育委員会が行った事務及び事業について、泉南市教育振興基本計画の基本方針１～５の構成に沿って評価委員会からの意見及び総評を取りまとめたものである。

１　基本方針１～５に対する意見

（１）基本方針１　確かな学力の定着と豊かな心を育成する（評価調書１～５）

数値にこだわるのではなく、子どもたちの弱みをフォローし、強みを伸ばし、生かしていってほしい。また、数値以外の指標も作成していただきたい。

学力について数値だけではなく、泉南の特色を強みにし、もっとアピールしていただきたい。

認知能力検査の実施は大変評価できる。検査結果は保護者や子どもにも分かりやすく、子ども自身が自己肯定感を上げることができる。

外国にルーツのある子どもはもちろんだが、その保護者に対しての日本語指導などを検討していただきたい。ただ、外国にルーツのある大人への日本語指導については教育委員会だけでは難しいことであるため、泉南市全体で取り組むことも検討していただきたい。

（２）基本方針２　学びを支える教育基盤を整える（評価調書６）

これから小中一貫校が増える可能性を鑑み、義務教育９年間を見据えた研修を継続して行っていただきたい。また、教職員のみならず保護者や市民にも理解をしていただくために何かアクションを起こしていただきたい。

（３）基本方針３　安全・安心な教育環境を整備する（評価調書７～９）

不登校になっている子どもはもちろんだが、学校に通っている子どもや保護者の思いを聴く機会を作っていただきたい。

ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）への相談件数が増えていることは、相談し易い体制が出来ていると思われる。これからもこのような体制を維持していただきたい。

校内教育支援員の配置を中学校のみではなく、小学校にも配置できるよう努めていただきたい。

新設する義務教育学校を大いに期待している。

これからますます熱中症対策を講じる必要が出てくると思われる。安全で安心な教育環境を整備するために予算を確保し、対策に努めていただきたい。

（４）基本方針４　生涯学習を推進する（評価調書 10～15）

自習室の利用者の利便性を考慮し、開室時間を延長するなどもう少し工夫をしていただきたい。また、市内の自習室を設置している施設間で連携を図り、自習室の利用の促進を図っていただきたい。

文化ホールでのイベントの案内内容をもっと詳しく発信していただきたい。

青少年センターで子どもたちの意見を取り入れて色々な行事を行っているのはとてもいいことであり、今後も安全面に気を付け、参加しやすい行事を行っていただきたい。

留守家庭児童会については、待機児童に対し、何らかの対策を検討していただきたい。

（５）基本方針５　市を挙げて教育施策の推進体制を確立する（評価調書 16・17）

子ども会議など子どもたちが自分たちで考え、企画しているのは良いことである。子どもたちがいろいろなことを考えてチャレンジし、達成感を味わうということは素晴らしいことだと思うのでこれからも継続していただきたい。

就学援助については、制度の内容の周知に務めていただき、必要な家庭に援助が行きわたるよう努めていただきたい。

２　総評

泉南市教育委員会では、泉南市教育振興基本計画（第３次）（計画期間：令和５年度から令和９年度）の５つの基本方針に沿って様々な施策や事業が行われた。

教育委員会が行う事業は、これからの泉南市を担う子どもたちに直結するものであるため、市民（保護者）の教育に対する関心が高く、期待も大きい。目指す子ども像の実現に向け、今後も子どもの意見表明と参加を意識した取組に期待する。

また、財政状況が厳しい中で限られた予算を活用し、事業を精選し、いろいろな教育課題に取り組むなどの努力を今後も続けていただき、社会の変化に応じて柔軟に対応した教育環境の整備を積極的に推進していただきたい。

今年度の課題を改善し、新たな視点で施策を立案し、これからの泉南市の教育行政が充実発展していくことを期待する。

Ⅵ　泉南市教育委員会による令和６年度事業等の点検及び評価（総括）

泉南市教育委員会では「泉南市教育振興基本計画（第３次）（計画期間；令和５年度から令和９年度）」に基づき、目指す子ども像「希望と力を持ち、たくましく生き抜く子ども」の育成を目指し、様々な取組を進めてきました。

外国にルーツのある児童生徒の増加を踏まえ、教育委員会として初期指導の手引きを新たに作成し、各学校園において児童生徒一人ひとりの実態を丁寧に把握したうえで、必要に応じた学習支援や加配教員による日本語指導など具体的なサポートを行うことができました。

令和５年度に策定しました「泉南っ子日本一宣言」の実現に向け、子どもたちの自尊感情や他尊感情を高めることを目的として「KIRAMEKI☆SUTEKI 泉南っ子」事業を実施し、認定を称える「泉南熊寺郎ミニトロフィー」を作成し、児童生徒へ配付しました。

中学校に校内教育支援員を配置することで校内教育支援ルームを常設することができ、不登校傾向の生徒に対して早期対応を行うことが出来ました。

（仮称）西信達義務教育学校等整備事業の実施事業者との契約締結が完了し、令和 10 年４月学校開校に向け、引き続き事業を進めていきます。

図書館・文化ホール会館 40 周年記念事業として、文化ホールの指定管理者との共済事業をはじめ、多様なイベントの開催や企画展示を実施し、多くの方に参加していただきました。

泉南っ子応援事業では、事業２年目となり交付件数は目標値を大きく上回りました。これからも泉南市の子どもたちのスポーツ活動の推進と文化芸術への振興を図ります。

令和６年度の 17 事業の取組についてすべて「概ね計画どおり」の評価をいただきました。いただいた評価に甘んじず、評価委員の方々の御意見を真摯に受け止め、事業の見直し、改善及び創意工夫に努め、目指す子ども像の実現に向け、今後も様々な教育活動を推進していきます。

最後になりましたが、点検及び評価に当たり、貴重な御意見・御提言をいただきました評価委員会委員の皆様には心から御礼申し上げます。

Ⅶ　泉南市教育委員会評価委員会規則

１　泉南市教育委員会評価委員会規則（平成 24 年泉南市教育委員会規則第４号）

（趣旨）

第１条　この規則は、泉南市附属機関に関する条例（昭和 46 年泉南市条例第 11 号）第３条の規定に基づき、泉南市教育委員会評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営その他委員会について必要な事項を定めるものとする。

（所掌事務）

第２条　委員会は、泉南市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の求めに応じて、教育委員会が地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第１項の規定により、毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うに当たり、同条第２項の規定により意見を述べるものとする。

（組織）

第３条　委員会は、委員４人以内で組織する。

２　委員は、教育に関し学識経験を有する者のうちから、教育委員会が委嘱する。

３　委員は、その委嘱に係る職務が終了したときは、解任されるものとする。

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き、委員の互選によってこれを定める。

２　委員長は、会務を総理する。

３　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（会議）

第５条　委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

２　委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

（庶務）

第６条　委員会の庶務は、教育委員会事務局教育総務課において行う。

（委任）

第７条　この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附　則

この規則は、公布の日から施行する。

令和７年度　泉南市教育委員会

点検・評価報告書（令和６年度対象）

発行・編集　　泉 南 市 教 育 委 員 会

住　　所　　泉南市信達大苗代 374 番地の４